

第57回 神戸市文化財保護審議会次第

日時 令和6年3月11日（月）14:30～

場所 市役所1号館14階 AV1会議室

1 開 会

2 議 事

(1) 指定候補物件の調査報告の件

(2) 答申

(3) 事務局からの報告

① 委員の退任及び補欠委員の委嘱等

② 神戸歴史遺産 認定・助成

③ 文化財保存活用地域計画

④ 令和6年度予算案関連事項

⑤ その他

3 閉 会

神戸市文化財保護審議会委員名簿

※委員任期 令和5年7月15日から令和7年7月14日（任期2年）

	担当部門	氏名	役職等、()内は専門分野
1	建築	黒田 龍二	神戸大学名誉教授 (建築史)
2	建築	橋寺 知子	関西大学環境都市工学部准教授 (近代建築)
3	建築	大林 潤	奈良文化財研究所 建造物研究室長 (建築史)
4	建築	三輪 康一	神戸大学名誉教授 (伝統的建造物・都市景観)
5	美術工芸品	筒井 忠仁	京都大学大学院文学研究科准教授 (絵画史)
6	美術工芸品	岩田 茂樹	東大寺上席研究員 (彫刻史)
7	民俗	大江 篤	園田学園女子大学学長 (民俗学)
8	歴史	市澤 哲	神戸大学大学院人文学研究科教授 (中世史)
9	歴史	藪田 貫	兵庫県立歴史博物館館長 (近世史)
10	歴史	黒崎 直	大阪府立弥生文化博物館名誉館長 (考古学)
11	歴史	菱田 哲郎	京都府立大学文学部教授 (考古学)
12	記念物	林 まゆみ	兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科客員教授 (庭園史)
13	記念物	石丸 京子	県立尼崎の森中央緑地 生物多様性 チーフコーディネーター (植物学)

※1～4の委員が伝建部会委員

令和5年度神戸市指定文化財答申予定物件一覧

種 類		名 称		数 量	所 在 地		
		所有者（管理者）			概 要		
指 定	有 形 文 化 財	彫 刻	木造阿弥陀如来及両脇侍像 (太山寺伝来)		3 軀	兵庫区北逆瀬川町1番39号	
			宗教法人 能福寺			(年代) 平安時代後期 (12世紀半ば)	
		書 跡 ・ 古 文 書	大般若経		600 帖	西区櫛谷町谷口259	
			宗教法人 如意寺			(年代) 平安時代後期～江戸時代	

令和5年度 神戸市指定文化財答申予定物件位置図



※●は所在地
※国土地理院 1/25,000 地形図をもとに作成

0 3 km

指 定 等 件 数 一 覧

種		類	令和4年度 までの累計	今 回 諮問件数	合 計
指 定	有形文化財	建 造 物	25	—	25
		絵 画	11	—	11
		彫 刻	23	1	(24)
		工 芸 品	7	—	7
		書 跡・古 文 書	5	1	(6)
		歴 史 資 料	1	—	1
		考 古 資 料	15	—	15
		石 造 物	15	—	15
	民俗文化財	有 形 民 俗	1	—	1
		無 形 民 俗	1	—	1
	史跡名勝天然記念物	史 跡	8	—	8
		名 勝	6	—	6
		天 然 記 念 物	7	—	7
小 計			125	2	(127)
登 録	有 形 文 化 財	建 造 物	19	—	19
	民 俗 文 化 財	無 形 民 俗	24	—	24
小 計			43	—	43
認 定	地 域 文 化 財	無 形 民 俗	4	—	4
		史 跡	11	—	11
小 計			15	—	15
指 定	文 化 環 境 保 存 区 域		9	—	9
選 定	歴 史 的 建 造 物		47	—	47
合 計			239	2	(241)

指定有形文化財

彫 刻

もくぞう あ み だ によらいおよびりょうきょう じ ぞう たいさん じ でんらい 3 軀
木造阿弥陀如来及 両脇侍像 (太山寺伝来)

所在地 兵庫区北逆瀬川町1番39号
所有者 宗教法人 能福寺
制作年代 平安時代後期 (12世紀半ば)

[法 量] 単位cm

	中 尊	左脇侍	右脇侍
像 高	86.4 二尺八寸五分	113.4 三尺七寸四分	113.1 三尺七寸三分
髮際高	74.5 二尺四寸六分	104.4 三尺四寸五分	103.8 三尺四寸三分
頂一顎	28.5	20.9	21.3
面 長	16.5	11.1	11.2
面 幅	16.1	11.0	11.4
面 奥	20.4	12.8	12.7
耳 張	20.3	12.8	13.1
胸奥 (左)	19.3	13.1	13.3
胸奥 (右)	19.0	13.3	13.7
腹 奥	25.3 (衣含む)	16.2	15.2
肘 張	54.2	36.9	36.0
膝 張	67.9	—	—
膝高 (左)	13.7	—	—
膝高 (右)	13.3	—	—
坐 奥	45.3	—	—
裾 張	—	25.7	26.1
足先開 (外)	—	19.2	18.7
台座高	117.0	73.0	73.0
框 幅	128.4	77.0	76.9
框奥行	103.4	61.5	62.0

[形 状]

【中 尊】

螺髪らほつを粒状に表す。肉髻珠につけいしゆ、白毫びやくごうを表す。耳朶みみは紐状、貫通する。三道さんどうを表す。大衣だいえを偏袒へんたん右肩うけんに着け、右肩に少し懸ける。大衣の縁を腹部から左肩にかけて一枚折り返し、左肩背面で末端を畳みつつ、左腰脇で台座上に少し被せる。裙くんを着ける。腹前へそにて両掌を上向きに組み合わせ、定印じょういんを結ぶ。右足を外にして結跏趺坐けっかふざする。

【左脇侍】

螺髪らけいを結う。地髪部の正面中央に化仏立像けぶつを表す。地髪は天冠台下の正面のみ髪てんかんだいの束ね目を表し、その他は平彫りとする。天冠台は紐二条の上に列弁れつべんを表す。白毫を表す。両耳前に鬢髪びんぱつが各一条垂下する。耳朶みみは紐状、貫通する。三道へそを表す。小さく臍へそを表す。左肩から条帛じょうはくを懸け、正面で末端を垂下させる。背面にも末端を表す。両肩から天衣てんねを懸ける。天衣は両膝辺及び両大腿部の上をそれぞれU字形に渡る。裙を着け、正面中央で左を外にして合わせる。裙は腰回りに折返しを表し、正面中央では舌状を示す。腰布を着ける。左腕は前方に屈臂くつびし、掌を内側に向け、持物の未敷蓮華の茎を執る。右腕は垂下し、掌を前に向ける。頭部をわずかに右に曲げ、腰を左に捻り、右足先をやや開いて立つ。

【右脇侍】

左脇侍像との相違点のみ記す。

地髪部の正面中央に水瓶すいびょうを表す。条帛は正面のみ末端を表し、背面では表さない。天衣のかたちは左脇侍のそれを左右逆転させる。両腕のかまえも左脇侍像のそれを左右逆転させる。頭部は傾けない。腰を右に捻り、左足先をやや開いて立つ。

[品質構造] *磁石を用いた検査による推測を交える。

【中 尊】

頭部は両耳後を通る線で前後に矧ぐわりくび（寄せ木か割り矧ぎかは不明）。割首するか。左体側部を矧ぐか。右手は肩、手首で矧ぐ。両手首先は共木か。頭部、体部ともに内刳を施す。両脚部を矧ぐ。裳先、左袖先垂下部を矧ぐか。像底に底板を貼り、内部を塞ぐ。

【左脇侍】

頭・体を通して、両耳後を通る線で前後に矧ぐか（寄せ木か割り矧ぎかは不明）。割首するか。両腕は肩で矧ぐ。両足裏に造り出した足柄あしほぞにて立つ。

【右脇侍】

頭・体を通して、両耳後を通る線で前後に矧ぐか（寄せ木か割り矧ぎかは不明）。割首するか。両腕は肩で矧ぐ。手首でも矧ぐか。両足先を矧ぐ。髻は別材製か。

[保存状態]

【中 尊】

肉身の金泥塗り、着衣の漆箔、肉髻珠、白毫、裳先^{もさき}、底板、光背、台座、以上後補。両耳上の螺髪部の矧ぎ目付近に補修の痕跡が認められる。

【左脇侍】

肉身の金泥塗り、着衣の漆箔、化仏、白毫、天衣の右手首やや上及び左肘やや前から側方に垂下する遊離部、銅製装身具のすべて、持物^{じもつ}、光背、台座、以上後補。条帛の背面末端垂下部後補か。螺髻、両手首先も後補の可能性はある。

【右脇侍】

肉身の金泥塗り、着衣の漆箔、水瓶、天衣の左手首やや上から側方に垂下する遊離部、同じく天衣の左前膊内側の遊離部、銅製装身具のすべて、持物、光背、台座、以上後補。螺髻、両手首先も後補の可能性はある。

[備 考]

月のわいでん^{つきのわいでん}（本堂）の本尊として、内陣須弥壇上^{ないじんしゅみだん}に安置される。昭和 29 年（1954）に同堂が移築落成したことを受けて、太山寺（神戸市西区伊川谷町前開 224）より勧請された。

[説 明]

ほぼ等身大の阿弥陀如来像とこれに随侍する観音・勢至菩薩立像^{かんのん せいし ぼさつりゅうぞう}である。阿弥陀如来像が定印を結び、両脇侍像がそれぞれ外側の手を上げて持物を執るかまえを示す三尊像は、現存作品では 9 世紀末の京都・仁和寺像^{にんなじ}を早い例とするが、在銘像では天承元年（1131）の鳥取・大山寺像^{だいせんじ}、永治 2 年（1142）の滋賀・金體寺像^{えいじ}、承安 2 年（1172）の三重・仏土寺像^{こんたいじ じょうあん}など、平安時代後期の諸作例に多く認められる。

能福寺像は阿弥陀如来像に新しい底板が貼られて像内が目視できず、また三軀とも後補の

分厚い漆箔・金泥が表面を覆うため、構造ないし技法の詳細を定かにしがたい。しかし作風は一見して洗練された定朝様を示すものであり、また三軀ともに前後矧ぎで割首を行うらしいことが磁石を用いた調査によって推測でき、構造・技法のうえでも平安時代後期の作とみなしても矛盾しない。

定朝から出た院・円2派および奈良仏師（のちの慶派）の3系統のなかでは、肉身や衣文のやや硬い質感に特徴のある院派の作風に近いかと思われる。院派の基準的作例としては、大治5年（1130）の京都・法金剛院阿弥陀如来坐像が院覚の作であり、寿永2年（1183）もしくは文治4年（1188）の同・長講堂阿弥陀三尊像が院尊かその周辺の院派仏師の作とみられる。能福寺像は院覚ないし院尊その人の手になるとまではいえないものの、法金剛院像や長講堂像の作風に比較的近いところを認めうる。一方で同時期の円派の作（たとえば保延5年（1139）の京都・安楽寿院阿弥陀如来像など）にみえる丸みを帯びた柔らかなタッチとは明らかに異質である。また奈良仏師の作と目される仁平元年（1151）の奈良・長岳寺阿弥陀三尊像は、玉眼使用による生氣のある面相や写実性を増した衣文表現に、やはり能福寺像との径庭が感じられる。作者名や制作年を特定するのは困難ながら、12世紀半ば前後の院派仏師、すなわち京都を中心に活動した中央の仏師による造像とみるのが穏当であろう。

三軀ともに像の表面が後補の漆箔・金泥に覆われるとはいえ、洗練された作風はなお色濃く認められ、作品としての価値を失っていない。院政期の美意識を顕著に示す優品であり、神戸市指定文化財たるにふさわしい。

【用語】

定朝（じょうちょう）：平安時代後期に京都を中心とする中央で活動した仏師。天喜元年（1053）に供養された藤原頼通発願の寺院、平等院鳳凰堂（京都府宇治市）の本尊阿弥陀如来像の作者であることが「定家朝臣記」の記述によって判明する。定朝の創始した仏像様式を定朝様といい、絵画的で平明なその作風が当時の貴顕に受容され、平安時代後期の2世紀近くの間、仏教彫刻の主流様式として全国に浸透した。弟子である長勢の系統が円派を、子とみられる覚助の系統が院派及び奈良仏師（後の慶派）を形成し、この3派の仏師が京都・奈良をはじめとする中央における造像を独占的に担った。



木造阿弥陀如来及両脇侍像



木造阿弥陀如来坐像（正面）



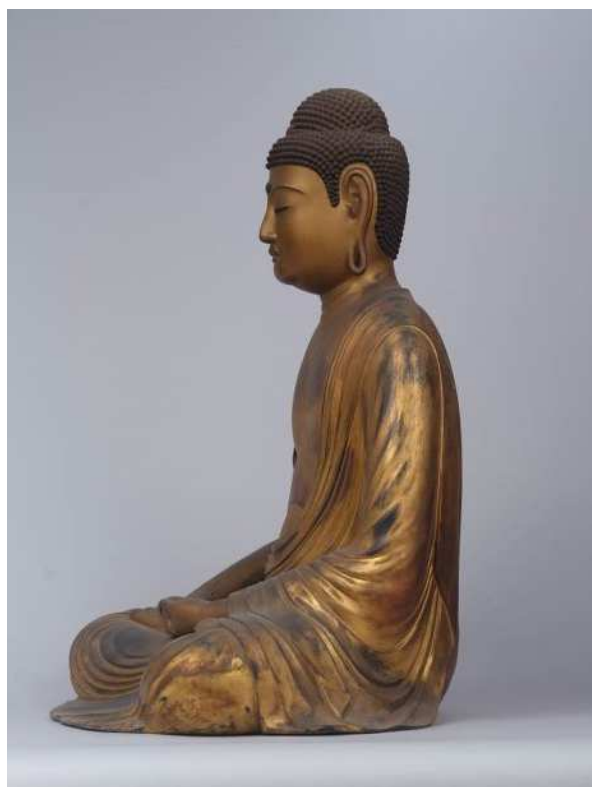
木造阿弥陀如来坐像（右斜側面）



木造阿弥陀如来坐像（背面）



木造阿弥陀如来坐像（右側面）



木造阿弥陀如来坐像（左側面）



木造阿弥陀如来坐像（面部 正面）



木造阿弥陀如来坐像（像底）



木造觀音菩薩立像（正面）



木造觀音菩薩立像（右斜側面）



木造觀音菩薩立像（背面）



木造觀音菩薩立像（右側面）



木造觀音菩薩立像（左側面）



木造観音菩薩立像（面部 正面）



木造観音菩薩立像（像底）



木造勢至菩薩立像（正面）



木造勢至菩薩立像（左斜側面）



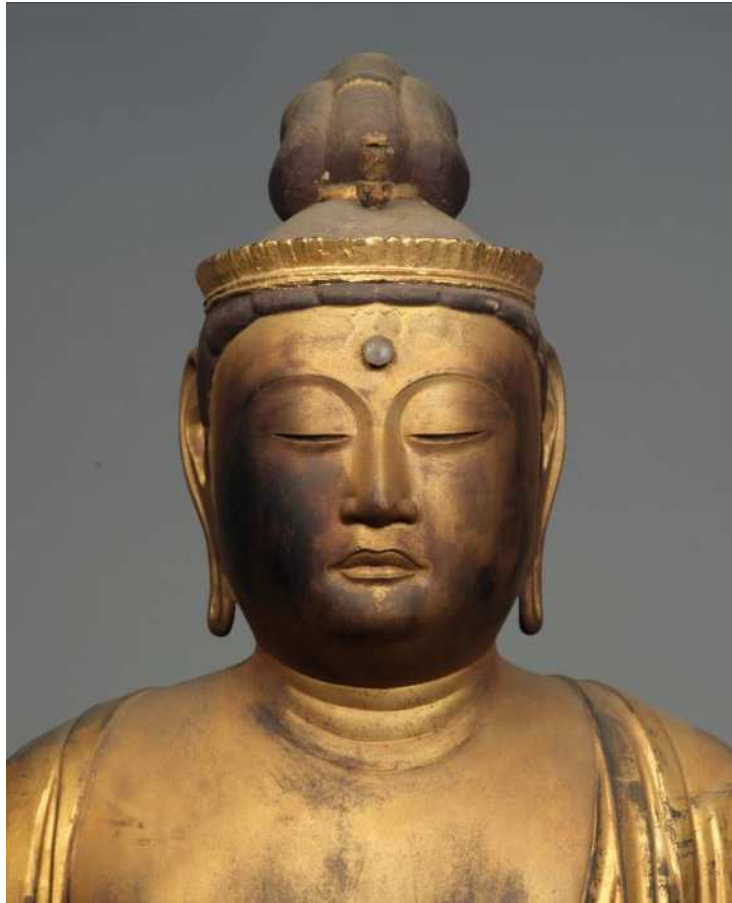
木造勢至菩薩立像（背面）



木造勢至菩薩立像（右側面）



木造勢至菩薩立像（左側面）



木造勢至菩薩立像（面部 正面）



木造勢至菩薩立像（像底）

指定有形文化財
書 跡・古文書

だいほんにゃきょう

大般若経 600 帖

所在地	西区櫛谷町谷口 2 5 9
所有者	宗教法人 如意寺
制作年代	平安時代後期～江戸時代
品質形状	紙本墨書 折本装
法量	縦 24.0cm 横 9.5cm 本 紙 紙高(現在)23.4～24.1cm、(改装前)25.5 cm(註1)

【概要】

大般若経(大般若波羅蜜多経)は、おそくとも奈良時代には日本にもたらされ、除災・請雨などの功德を期待され、平安時代以降各地に広まった。神戸市内では、西区太山寺や北区石峯寺などの古刹に中世の大般若経が所蔵されている。

比金山如意寺は、市内有数の天台宗の古刹であり、3棟の国指定重要文化財建造物をはじめ、多くの文化財を今日まで伝えている。令和3年度には平安時代後期の木造十一面観音菩薩坐像が市有形文化財に指定された。

本経は、如意寺に伝世した平安時代後期の書写経巻を含む一具の大般若経である。全600巻が揃い、そのすべてが書写経である。補写などにより異なる時期のものが一卷の中で混在している場合があるが、書写の時期は、料紙の漉きむらや筆跡などから約9割が平安時代後期から鎌倉時代初期と考えられる。元は卷子装であったが、天保14年(1843)頃に如意寺周辺の村々の助縁により、すべて折本装に改装された。10帖単位で千字文一字をあて^{むそうちつ}無双帙で包み、5帙ずつ全12個の木製箱に納められている。箱の落とし蓋にはその5帙の千字文と箱の番号である十二支の漢字一字を記している。なお、本経については、神戸市立博物館により、全巻に及ぶ詳細な調査が行われ、奥書や料紙幅などから来歴の検討が行われている。神戸市立博物館の調査をもとに、指定にあたる調査結果も踏まえて、各巻の奥書・料紙幅・校訂の有無を目録にまとめた。さらに、詳細は調査中であるが、この本経に加え、大般若経転読会の本尊である絹本著色「釈迦三尊十六善神図」も伝えられている。なお、如意寺において大般若経を用いた法会は現在行われてない。

【来歴】

奥書に江戸時代以外の年代の記載があるものは28帖であり、6帖(巻第310、332、474、475、479、480)が天養2年(1145)に常隆寺(廃寺：播磨国美囊郡)で書写されたもの(以下、常隆寺経という)である。なお、この常隆寺経は、現在のところ「美囊」を「三木」と記し

た最も古い史料であることが指摘されている(『新三木市史』)。これらの奥書によると、高男寺(廃寺：播磨国美囊郡)の僧、聖寂・暹寂が勧進し、僧の賢光・蓮西・女高橋氏らが助成結縁し、古代から東播に勢力を有していた船木氏とその姻族の文屋氏の女性らの現世安穩、極楽往生が願われている。

それ以外にも、巻第 320 の奥書には年紀や常隆寺等の寺名はないが、船木氏の供養のためと記されているので、この巻も常隆寺経と考えられる。また、600 帖とは別に、『明石市史資料(古代・中世篇)第 5 集』で「師弟相承次第」として紹介されている史料がある。これは 3 紙を繋ぎ合わせているが、今回の調査で第 3 紙は本経の奥書であることが明確になった(註 2)。いずれも修理にあたり分離したものと考えられるが、その第 3 紙目には、他の常隆寺経と同様に天養 2 年の紀年銘に続き「船木貞宗女口(草カ)」の奥書が認められる。切断面の形状より巻第 478 から分離された奥書部分と推測でき、常隆寺経である可能性が高い。これらを踏まえると常隆寺経と考えられるものは少なくとも 8 帖となる。

巻第 201 の巻末には、高男寺僧による文和 2 年(1353)の補修銘と「播州 萬勝寺(満勝寺：兵庫県小野市)」の奥書があり、いずれかの段階で常隆寺経が萬勝寺に移されたと考えられる。他にも萬勝寺銘のある経巻には、明德 5 年(1394)の年紀を持つ巻第 257、文明元年(1469)に同寺の勧進聖が購入した奥書を持つ巻第 210 があり、同寺において大般若経の整備が行われたと推測される。

また、巻第 127・128 の奥書には、「仲山寺(中山寺：兵庫県宝塚市)」とあり、加えて長治 2 年(1105)9 月 10 日、賢昭が願主になり、応実・舜意が書写を始めたことが分かる。これらは中山寺一日頓写大般若経として著名なもの(以下、中山寺経という)で、これまでは兵庫県加東市の上鴨川住吉神社に伝わったものと、これから分かれて馬瀬住吉神社に伝わった 2 群が知られている。

このほか、天承元年(1131)の年紀を持つ巻第 151 は、石峯寺(北区)の僧である覚秀が書写したもので、これは石峯寺が史料上に登場する最も古く確かな記録である。また、巻第 583 は久寿 2 年(1155)に和泉国大鳥郡和田郷の釈尊寺(廃寺：大阪府堺市)で書写されたものである。同寺で書写された経典として、金剛寺(大阪府河内長野市)に伝わる一切経のうちの 3 巻が知られている。この 3 巻はいずれも嘉禎 3 年(1237)に書写されたものであるが、如意寺経のそれはさらに時代を遡るものである。

現時点で書写の経緯が判明する経典は以上の通りであるが、その他にも別の寺院で平安時代後期に書写された経巻の混合も想定される。

如意寺における大般若経の整備については、「如意寺文書」の中に文応元年(1260)に寄進されたとする近世の記述(『如意寺旧記』)や、文安 3 年(1446)に如意寺が大般若経田を有していたことを示す史料(「行重・近助連署裁許状写」)があるが、前者は二次資料、後者は写しであり確実性に乏しい。天正 3 年(1575)明石城主による岩屋神社拝殿(兵庫県明石市)での祈雨の一日経(頓写)が行われたとき、それへの参画をめぐって同じ明石郡の太山寺と軋轢が生じた一件(「岩屋殿雨請記録」(「太山寺文書」))が、大般若経の存在をうかがえる

より確実な史料と言える。

一方、経典の伝来からみると、出自を異にするこれらの大般若経が如意寺で混合した時期の上限は、常隆寺経が萬勝寺で整備された文明元年(1469)以降となる。

【補修の特徴】

補修方法として、欠巻をすべて新しく書写する、あるいは欠損部分を補写する方法だけでなく、別の大般若経から当該部分を切り取って補う特徴的な方法(補簡)をとっていることが指摘されている。巻第 108 は、継ぎ目で同じ文章が重複する箇所があり、補修の際に欠損している箇所を別の経巻の同じ箇所でも補填していると推測される。この方法は他の経巻でも散見され、修理材として再利用された古経が存在していたと考えられる。

また、巻第 233 は、巻第 536 の巻末部分の断簡を補修紙として使用している。巻第 536 の該当部分は欠失し江戸時代に補写されており、元の料紙が何らかの原因により大きく損傷し、その断片を別巻の補修に使用したと推測される。巻第 76 にも、巻第 597 の首題部の断簡が同様に補修紙として使用されている。

近世においても、天保 14 年(1843)頃の改装に引き続いて、嘉永 3 年(1850)まで塔頭寺院の僧侶や明石城下の商人らの書写による補巻も行われており、周辺地域の信仰が幕末まで連綿と受け継がれてきたことを物語っている。

【所見】

以上のように、本経は市内に類例のごくわずかな平安時代後期の紀年銘をもつ書写経である。また、その来歴は西摂から東播の寺院ネットワークがあったことを示している。さらに補修の痕跡は、経典に対する人々の意識、信仰のあり方を物語っている。加えて寺院を支える地域の人々の努力によって今日に伝わったことから、本経は貴重な文化財といえる。

以上の理由により、神戸市指定文化財とするにふさわしい。

【註・参考文献】

註 1：600 帖とは別に伝わる奥書の断簡の測定値による。

註 2：断簡 1 点は本来大般若経の一部と考えられるため、600 帖の内に含めるものとする。神戸市立博物館編『神戸の文化財Ⅱ-神戸市指定文化財を中心に-』展図録、神戸市教育委員会、2007

問屋真一「【資料紹介】如意寺所蔵の大般若経-平安時代後期の混合経の一例について-」、『神戸市立博物館研究紀要』37、神戸市立博物館、2022(※奥書銘文・目録は『紀要』を基に編集した)

神戸市教育委員会編「如意寺文書」、『神戸市文献資料』第 2 巻、1979

兵庫県史編集専門委員会編『兵庫県史』資料編、中世 2、1987

明石市教育委員会編『明石市史資料』第 5 集、古代・中世篇、1985

加東市教育委員会編『馬瀬住吉神社の大般若経』、2009

加東市・多摩美術大学美術館編『神仏人 心願の地』展図録、2018

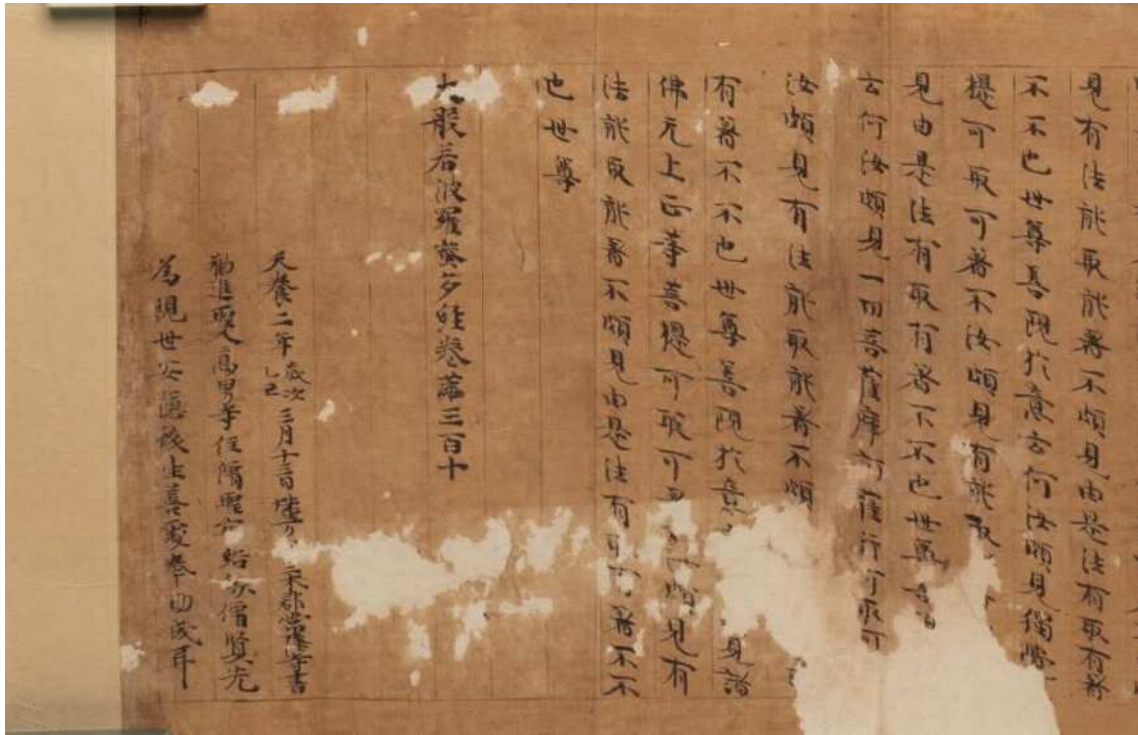
三木市史編さん委員会編『新三木市史』第4巻、資料編古代・中世、2023
社町編『社町史』第1巻、本編1、2007
社町編『社町史』第3巻、史料編1、2001



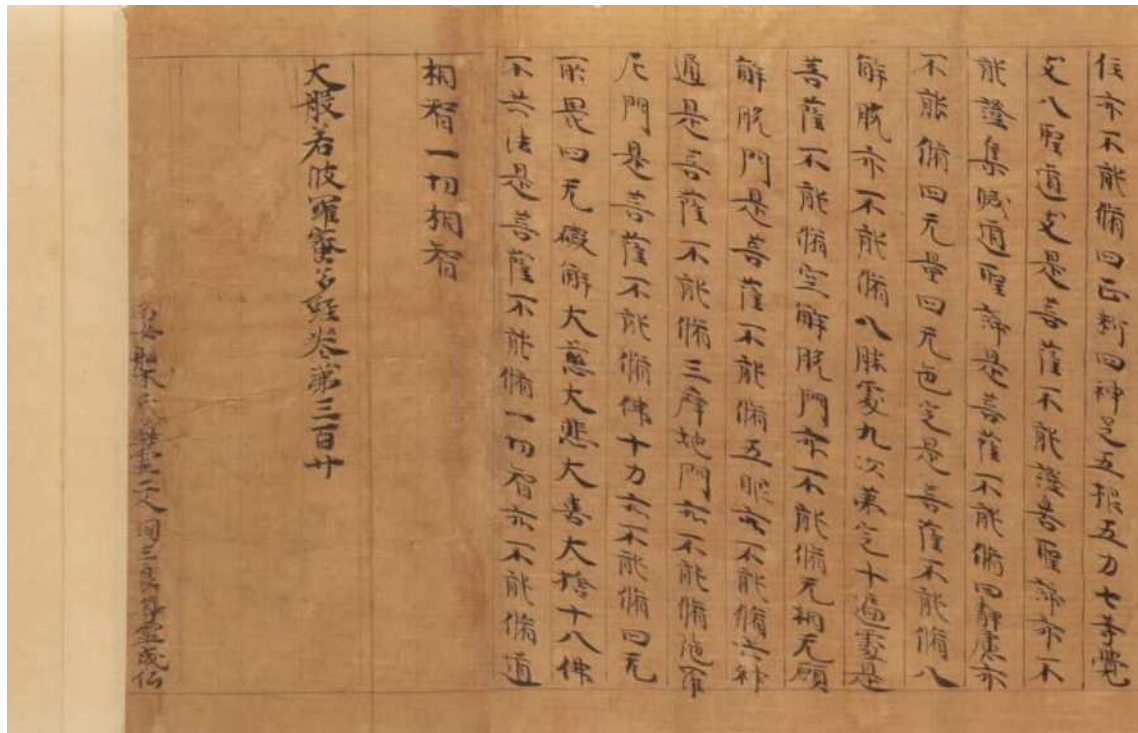
大般若經收納木箱



大般若經收納狀況



常隆寺經(卷第 310 奧書)



常隆寺經(卷第 320 奧書)

此菩薩摩訶薩所住如是言過去如來正覺又已授汝大菩提記汝行瓦上三子菩薩
 持此念當得不退還轉何以故諸不退轉位
 菩薩摩訶薩功德初伏汝當具有應自尊重
 勿生捨離善因如我所說實得不退轉菩薩
 魔訂正諸行伏初是菩薩摩訶薩深信上得
 實智亦有善現當知是菩薩摩訶薩魔所加
 持若魔所加何以故是菩薩摩訶薩行得不
 退轉菩薩摩訶薩諸行伏初實智不有但聞
 惡魔說果功德及說名字生處生時少分以
 實便生憍慢狂專毀罵諸餘善法是故善因
 后善菩薩摩訶薩欲得瓦上正等菩提應善覺
 知如是魔事

大般若波羅密多經卷第三百廿二

天養二年 歲次 七月十日 三都常隆寺善果
 初進取 子雅僧星年結緣衆僧賢光
 過云此 三之三身並注法華樂
 頓證菩提耳 仍法緣勿成意無以如斯

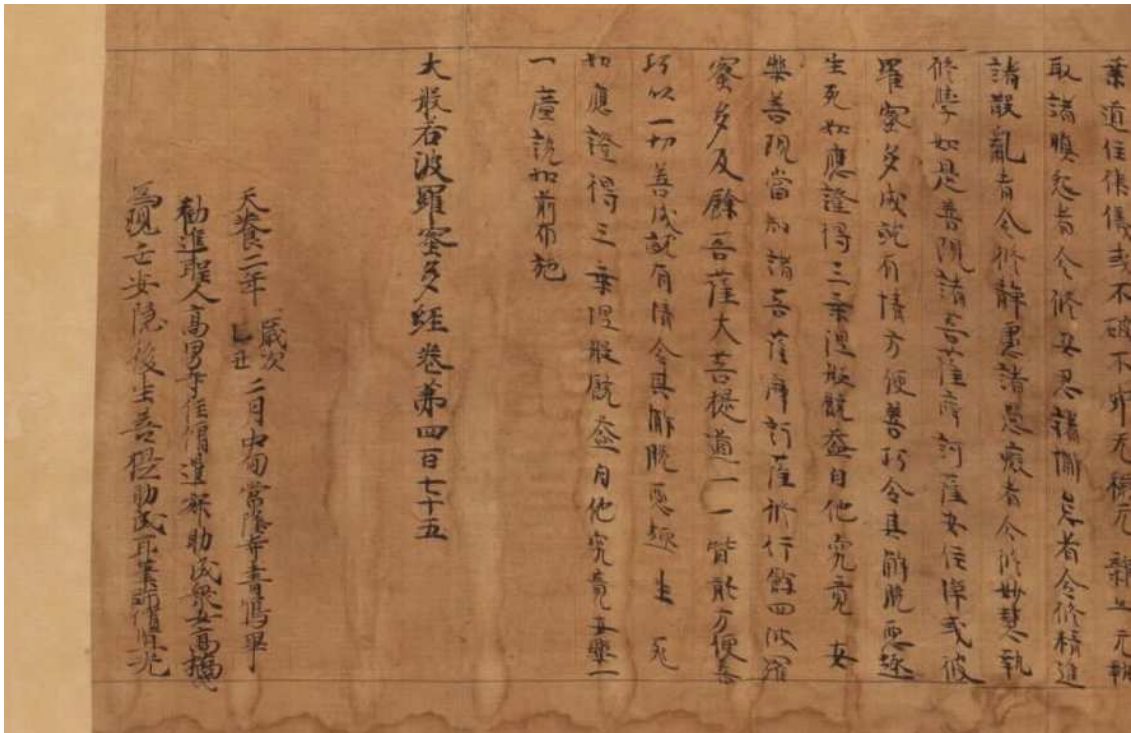
常隆寺經(卷第 332 奧書)

此是空元相元願解脫門此是淨觀地乃至
 如來地此是極喜地乃至法雲地此是一切
 陀羅尼門三摩地門此是五眼六神通此是
 如來十力乃至十八不共法此是三十二
 士相八十隨好其是元念夫法恒住捨住此
 是一切智道相智一切相智此是預流果
 乃至獨覺菩提此是一切菩薩摩訶薩行其
 是諸佛无上正等菩提此是異生此是寂聞
 此是徧覺此是菩薩此是如來

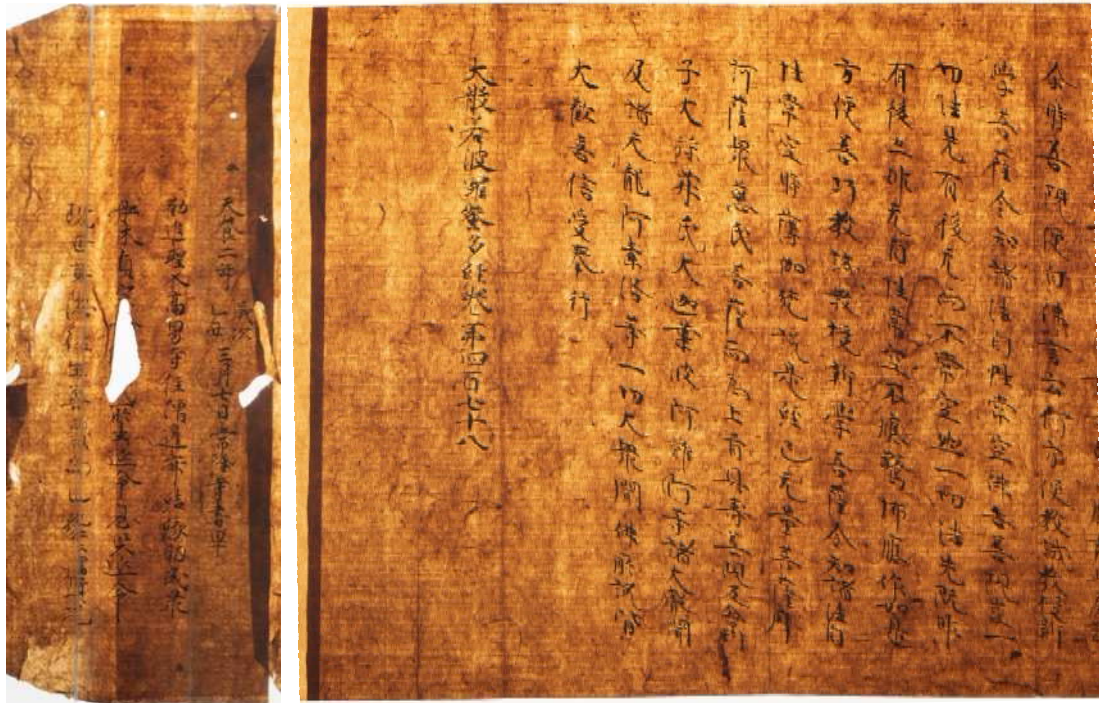
大般若波羅密多經卷第四百十四

天養二年 歲次 二月三日 三都常隆寺善果
 初進取 子雅僧星年結緣衆僧賢光
 過云此 三之三身並注法華樂
 頓證菩提耳 仍法緣勿成意無以如斯

常隆寺經(卷第 474 奧書)



常隆寺經(卷第 475 奧書)



常隆寺經(卷第 478 卷末・断簡奥書部分) 透過光撮影 ※▲▼は切目を示す

願所居士无有一切貪欲瞋恚愚癡等名其
 中有情成慧妙慧由斯慧力作是思惟而施
 調伏安忍勇進寧靜諦觀雖諸放逸勤修
 死行慈悲喜捨不惱有情如餘佛土豈不美哉
 化事既周般涅槃後正法无有幾盡之斯常
 為有情作大饒益必是事應學般若波羅
 蜜多若菩薩摩訶薩修行般若波羅蜜多作
 如是念我得无上正等學特觀令十方現伽
 沙等无量世界一切有情開我名者女得无
 上正等菩提故成是事應覺般若波羅蜜多
 舍利子諸菩薩摩訶薩得女等无量无边殊勝
 功德應覺般若波羅蜜多

大般若波羅蜜多經卷第四百十九

天養二年歲次三月十日博多國三乘院
 勸進聖人 高男子住持
 聖察法師助成衆下大威重聖卷
 教少而止現正安隱後出善慶
 法鼓清談 秋助成 大經筆書

常隆寺經(卷第 479 奧書)

復次舍利子諸菩薩摩訶薩修行般若波羅
 蜜多不作是念有法與法若相應若不相應
 若等若不等何以故舍利子是菩薩摩訶薩
 不見有法與法若相應若不相應若等若不
 等故舍利子諸菩薩摩訶薩修行般若波羅
 蜜多無如是法相應故當言無般若波羅蜜
 多相應

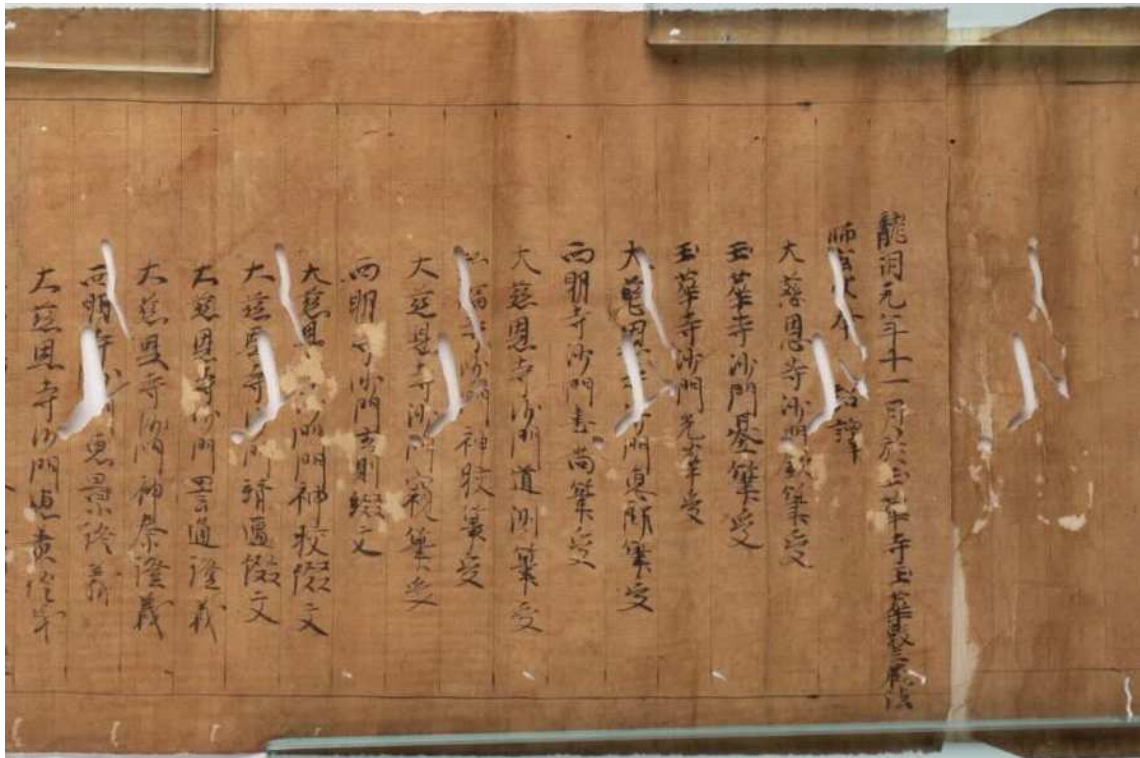
大般若波羅蜜多經卷第四百八十

天養二年歲次三月十日博多國三乘院
 勸進聖人 高男子住持
 聖察法師助成衆下大威重聖卷
 教少而止現正安隱後出善慶
 法鼓清談 秋助成 大經筆書

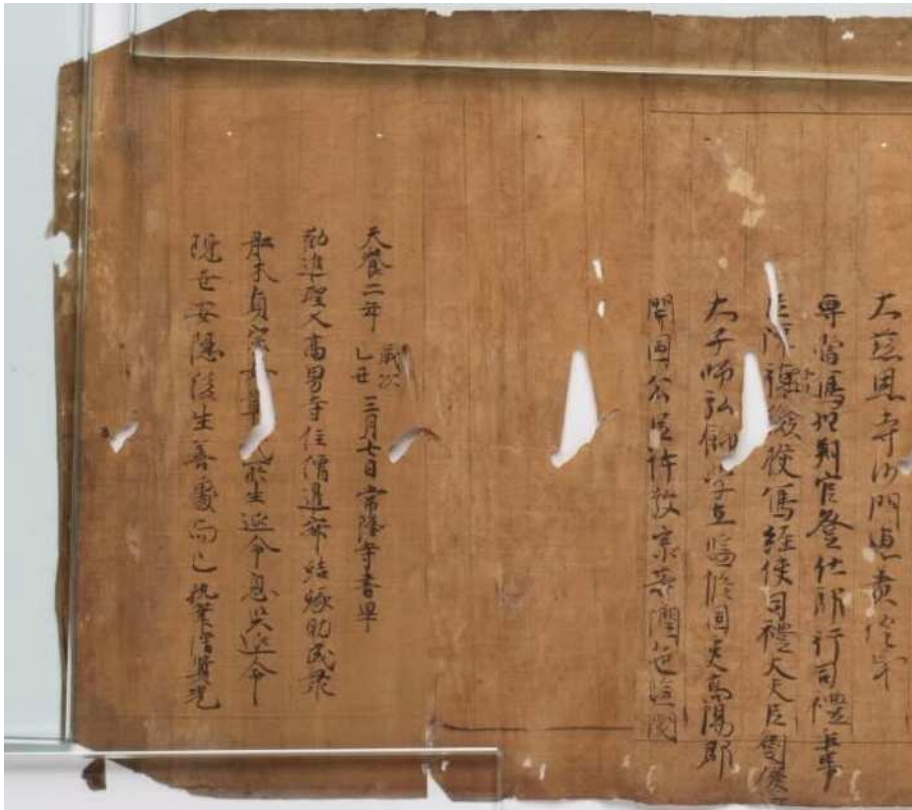
常隆寺經(卷第 480 奧書)



断简卷頭



断简中央



断簡卷末（天養2年奥書）

以故若十方界如燒伽沙一切如來應正等
 覺若三示導若所宣說十二分教皆依般若
 波羅蜜多而出生故世尊若善男人善女人
 寺以无量種上妙花鬘塗散等香衣服瓔珞
 寶幢幡蓋眾妙珍奇伎樂燈明畫諸所有供
 養恭敬尊重讚歎十方世界如燒伽沙一切如
 來應正等覺有善男子善女人寺書寫般若
 若波羅蜜多亦以无量上妙花鬘塗散等香
 衣服瓔珞寶幢幡蓋眾妙珍奇伎樂燈明畫
 諸所有供養恭敬尊重讚歎此二功德平等
 无異何以故彼諸如來應正等覺皆依般若
 波羅蜜多而出生故

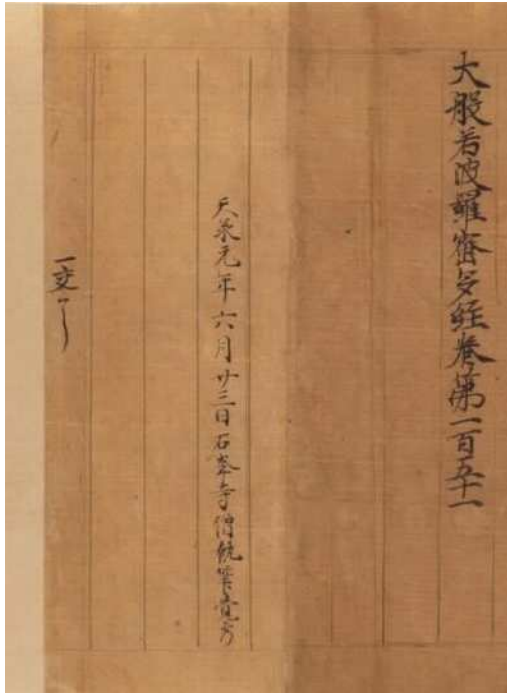
大般若波羅蜜多經卷第一百廿七
 一
 仲寺
 經下四
 長治二年九月十日
 願自賢施
 筆取僧應安

中山寺經(卷第 127 奧書)

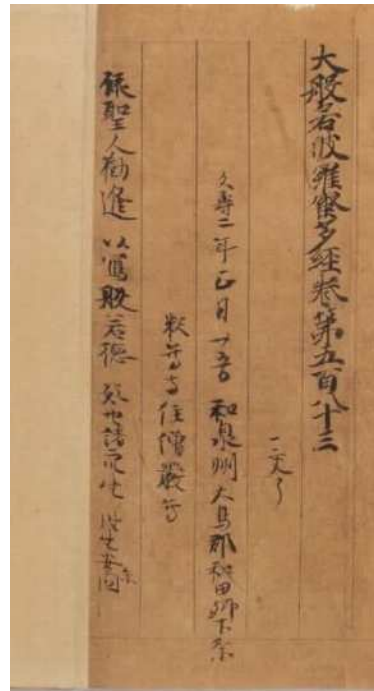
樂供養恭敬尊重讚歎然於如是正深般若
 波羅蜜多供養恭敬尊重讚歎願功德甚
 多於彼由是因緣我意寧取如是般若波羅
 蜜多世尊若善男子善女人寺供養恭敬尊
 重讚歎如是般若波羅蜜多則為增長一切
 佛法亦為攝受世出世間一切富貴安樂自
 在如是已為供養恭敬尊重讚歎佛設利雅

大般若波羅蜜多經卷第一百廿八
 仲寺大般若經一部
 長治二年九月十日
 願自賢施
 筆取僧應安

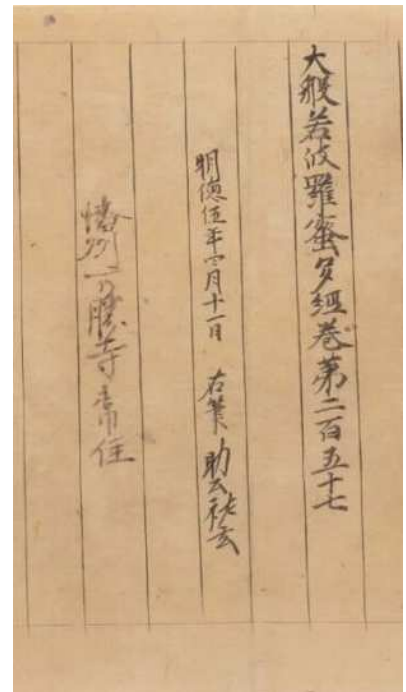
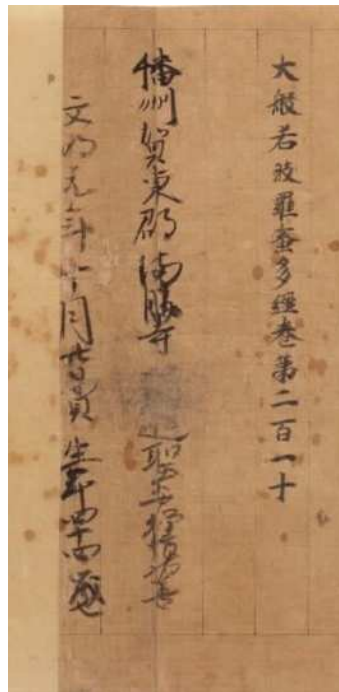
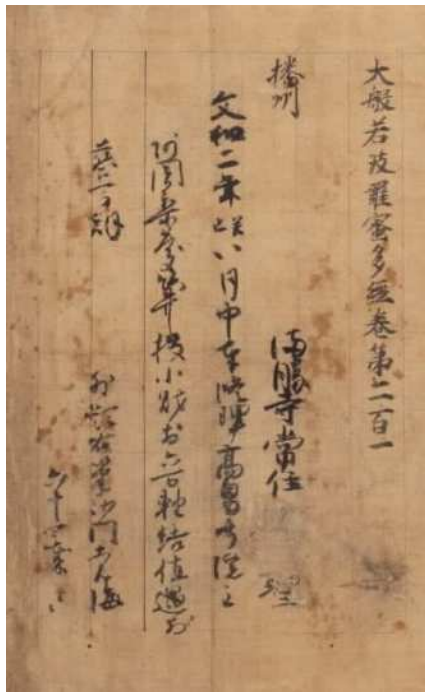
中山寺經(卷第 128 奧書)



石峯寺僧の書写 (卷第 151 奥書)



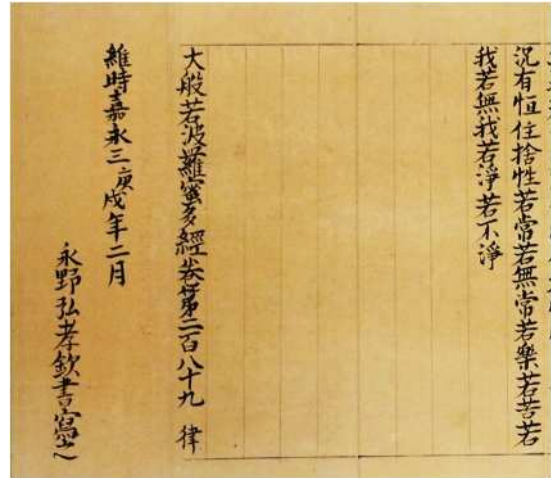
積尊寺僧の書写(卷第 583 奥書)



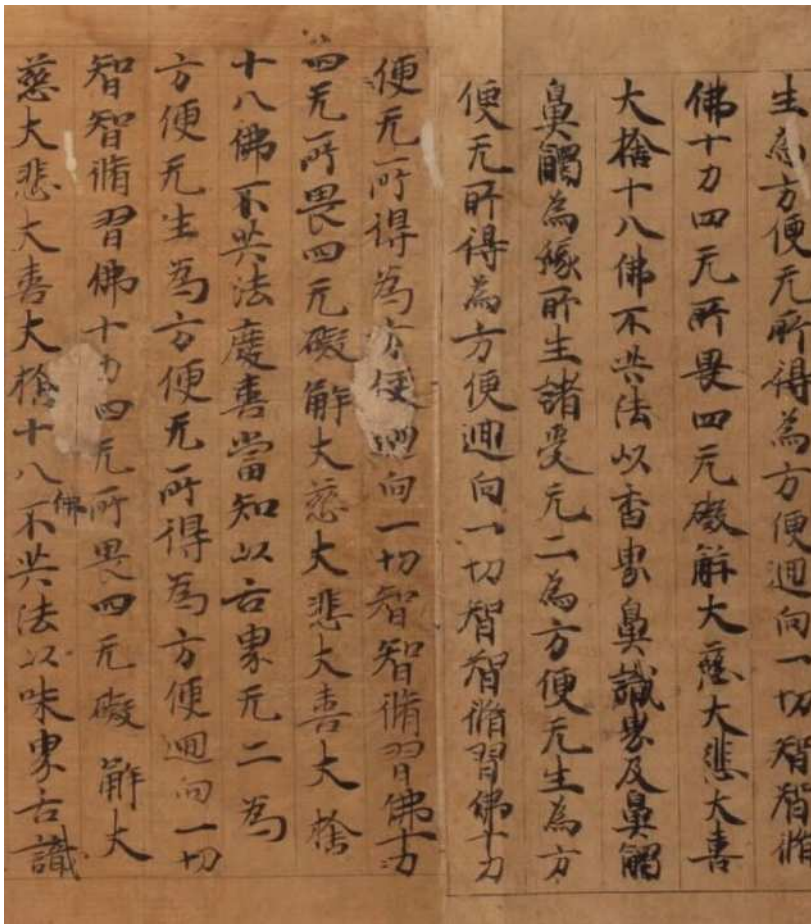
萬勝寺での整備 (左から 卷第 201 奥書・卷第 210 奥書・卷第 257 奥書)



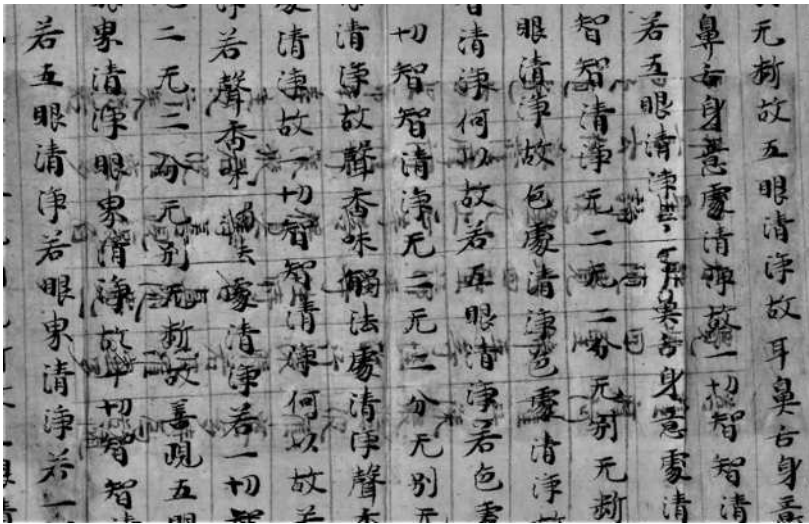
江戸時代修理銘(卷第 1 天保 14 年)



江戸時代修理銘 (卷第 289 嘉永 3 年)

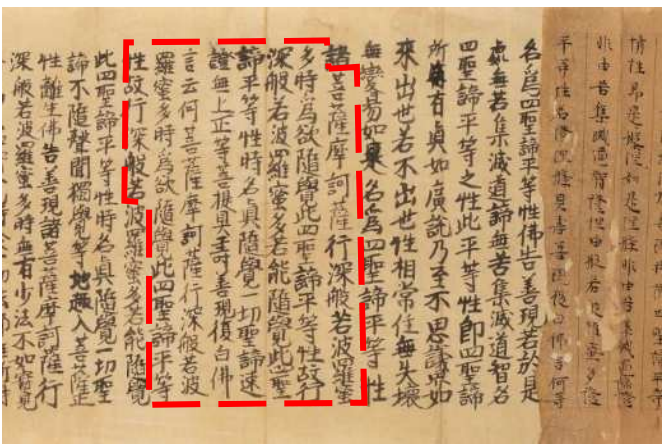


補修狀況【補簡】(卷第 108) ※中央部分で文字重複



卷第 233 卷 (補修部分 赤外線撮影)

菩薩摩訶薩行深般若波羅蜜多時。爲欲隨
 覺此四聖諦平等性故行深般若波羅蜜多。
 若能隨覺此四聖諦平等性時。
 切聖諦。速證無上正等菩提。具壽善現復白
 佛言。云何菩薩摩訶薩行深般若波羅蜜多
 時爲欲隨覺此四聖諦平等性故。行深般若



第 536 卷該当部分

凡例

- ・奥書・修理銘は常陸寺経と判断できるものには巻次に網掛けを、同じく中山寺経では奥書・修理銘に網掛けをしている。擦り消して判読不明な文字は≒とする。
- ・各紙幅では、現状の数値を記載する。必要に応じ、界高は()、料紙の質、書写時期の変化の箇所を / で示している。
- ・校訂は、記載のままの文字で表記し 朱書きは(朱)とする。※は特記事項に記入したことを表す。なお巻末の裁断で失われたものも少なくない。
- ・料紙幅及び特記事項の○囲い数字は、巻頭からの料紙順を示す。●囲い数字は、巻末からの料紙順を示す。
- ・料紙の紙高は、23.4～24.1センチで、そのほとんどが23.9センチである。ただし、当初の卷子装の状態での紙高は25.5cm程度。(断簡の計測による)
- ・5帙(10帖/帙)を納める木箱は幅54.7 高さ22.8 奥行28.4センチである。

巻数	奥書・修理銘	料紙幅(cm)	校訂	特記事項等
1	覚月了悟大姉/天保十四癸卯年六月十七日/施主寺谷村/源兵衛	①25.0②40.0③15.6/④41.4⑤40.8⑥40.0⑦37.5⑧⑨⑩40.6⑪40.7⑫40.9⑬40.7⑭40.9⑮41.0⑯⑰40.8⑱⑲40.9⑳㉑41.0㉒38.0		序文(江戸時代書写)あり「大般若經初會序 西明寺沙門玄則製 …」とは異なる序文「大唐三藏聖教序」及び大唐大慈恩寺三藏法師傳卷第七の一部を引用 ⑤-⑦は一筆カ
2	覚翁了悟居士/天保十四癸卯年六月十七日/施主寺谷村/源兵衛	①38.5②40.3③40.4④40.5⑤⑥40.3⑦11.8⑧21.0⑨40.8⑩⑪40.5⑫⑬40.5⑭40.8⑮40.5⑯⑰40.0⑱⑲40.0⑳㉑40.8㉒36.9		⑧と⑨、⑪と⑫の各継目に文字がのらないよう小さく書写する
3	先祖代々菩提/天保十四癸卯年六月十七日/施主寺谷村 源兵衛	①32.5②40.8③41.0④40.5⑤40.9⑥⑦⑧⑨40.8⑩⑪37.3⑫⑬38.5⑭20.2		改装時、上端の文字一部切断 ⑧-⑩の紙背にマークの判あり
4	秋月恵照信士/天保十四癸卯年六月十七日/施主小神村/伊左衛門	①38.8②40.6③④⑤40.8⑥41.0⑦40.2⑧40.9⑨⑩⑪40.8⑫39.5		改装時、文字行の中央を切って継目とする ⑧⑨他の紙背にマークの判あり
5	為 先祖代々/施主寺谷村/角左衛門/磯吉	①39.5②40.3③④⑤40.5⑥40.3⑦⑧⑨40.5⑩⑪16.6		改装時、文字行の中央を切って継目とする
6	先祖代々/施主寺谷村 幸左衛門/久兵衛 吟蔵/乙松 吉左衛門	①37.7②③40.5④21.1		継目に文字がのる
7		①38.0②③40.8④36.0		改装時、文字行の左端裁断し 文字の左の一部切れる
8	家内安全/施主寺谷村 磯治郎	①40.1②41.3③41.0④40.7⑤41.2⑥⑦⑧41.2⑨⑩⑪41.5⑫3.7		
9		①34.7②41.3③41.1④41.2⑤⑥⑦41.3⑧7.1		
10		①39.5②40.6③3行5.0④34.0⑤⑥⑦41.0⑧23.0		
11	為 一翁円西信士/施主寺谷村 九兵衛	①30.8②23.6/③33.3④47.8⑤48.0⑥⑦47.8⑧47.3⑨47.3⑩47.1⑪⑫47.0⑬54.0⑭53.8⑮53.6⑯54.0⑰⑱53.8⑲55.5⑳㉑51.4	一交了	③以降、訂正の書き込みあり、一筆(癖強い文字) ⑫⑬に朱点あり
12	為 庸亡童子/施主寺谷村 九兵衛	①43.5②③45.3④⑤45.5⑥⑦45.9⑧45.9⑨45.8⑩⑪45.5⑫45.9⑬45.3⑭⑮45.9⑯45.8⑰⑱49.3⑲31.4		
13	覚月翁翁信士/施主 寺谷村 市兵衛	①50.2②③54.5④53.5⑤21.7⑥54.4⑦54.5⑧54.8⑨55.0⑩18.1⑪54.0⑫54.7⑬54.3⑭53.5⑮25.6⑯53.0⑰⑱54.5⑲14.3	一交了	①-④と⑥-⑯は同筆、①-④と⑥-⑯は⑤、⑯以降と異筆 ただし⑯の途中で筆跡が変わり、①-⑯に似る ⑤の前後、⑩の前後、⑯の前後で錯簡なし
14	家内安全/施主寺谷村 常三郎	①49.3②54.0③53.6④53.5⑤⑥47.0⑦55.5⑧⑨⑩⑪55.7⑫47.0⑬46.7⑭46.5⑮46.0⑯46.0⑰44.6⑱55.8⑲3.1	一交了	料紙規格の変わる前後は同筆だが、料紙の途中を含め何度か手がかわる、⑯と⑰は異筆
15	商売繁盛/施主寺谷村 常三良	①46.5②49.2③④49.5⑤49.3⑥⑦49.5⑧⑨⑩49.7⑪50.1⑫46.2⑬46.3⑭⑮46.1⑯46.2⑰46.0⑱48.6⑲29.5	一交口(了)	
16	家内安全/施主寺谷村 清右衛門	①45.5②49.8③④⑤49.4⑥42.0	一交了	
17	先祖代々/発光淨慶信士/寺谷村 吟兵衛 伊左衛門	①7.6/②45.1③④⑤55.5⑥55.7⑦⑧51.0⑨50.7⑩50.8⑪40.3/⑫29.7⑬42.9⑭42.6⑮⑯42.8⑰42.9⑱41.2		①は②以降とほぼ同時期だが 異筆
18	家内安全/施主 寺谷村 兵治郎	①44.6②46.1③58.9④49.1⑤49.0⑥46.1/⑦50.5⑧50.9⑨50.6⑩⑪55.6⑫⑬47.3⑭56.5⑮56.2⑯⑰4.7⑱22.2	一交了	⑥と⑦は同筆、⑦の文字右端が⑥にかかると、⑧-⑩一筆
19	為 先祖代々/施主寺谷村 清兵衛	①44.0②47.5③④47.5⑤42.5/⑥7.5⑦49.5⑧43.5⑨⑩49.5⑪⑫49.0⑬48.5⑭⑮49.0⑯43.0	一交了	⑥は⑤⑦と異筆
20	為 春林清光信士/施主寺谷村 久右衛門	①38.5②12.5③51.7④⑤51.4⑥51.0⑦51.4⑧⑨51.7⑩⑪49.3⑫⑬33.1⑭49.3⑮43.8	一交了	⑫と⑬は同筆
21	玉露童女/六親眷屬/施主 寺谷村 /久蔵 同主計 /養母	①39.0②③44.8④⑤45.2⑥43.6⑦46.7⑧⑨47.5⑩⑪46.2	一交了	
22	天保十四癸卯年六月十七日/観山善空信士/施主寺谷村/力三郎	①43.0②47.7③④47.5⑥⑦47.8⑧⑨47.5⑩⑪45.8⑫⑬37.8	一校了	⑮と⑯は同筆
23	円采友松齋源利一居/定郎手信女/峯月浄見信士/寺谷村/主計妻 同/義右衛門	①52.6②③45.4④⑤45.5⑥45.6⑦45.5⑧⑨45.6⑩44.2⑪44.0⑫44.2⑬⑭44.0⑮44.2⑯6.2⑰⑱5.5/⑲34.0⑳27.0/㉑4.7/㉒23.3㉓24.1㉔24.3	一交了	④と⑤は同筆、⑮と⑯は同筆で⑰とは異筆、⑱と⑲は同筆で⑳とは異筆、㉑と㉒は同筆、㉓㉔は補写カ補簡カ ⑮-⑲で錯簡なし ⑲の文字の右端は⑱の紙で隠れる。
24	請山友観信士/珍山浄体信女/施主 寺谷村/作治平	①40.7②③44.2④45.6⑤⑥44.4⑦⑧44.2⑨44.4⑩⑪44.1⑫44.5⑬⑭44.1⑮39.8	一校了	⑩の途中で手が変わる
25	□□□□ 一心徳入信士/施主寺谷村/宇兵衛	①42.9②③45.4④⑤45.5⑥45.6⑦45.5⑧⑨45.6⑩45.8⑪45.6⑫45.3⑬44.1⑭⑮44.1⑯44.3⑰43.8⑱44.2⑲34.8	一校了	⑫と⑬は同筆 首題下、改装時の裁断で文字痕跡
26	先祖代々/施主寺谷村/宇兵衛	①7.0②③44.2④⑤44.2⑥44.3⑦44.2⑧44.6⑨44.5⑩44.3⑪44.4⑫46.0⑬⑭45.8⑮45.6⑯45.8⑰45.6⑱46.0⑲38.2	一校了	⑤の途中で手が変わる
27	家内安全所願成就/施主寺谷村/庄兵衛	①40.2②45.7③46.1④45.7⑤⑥46.1⑦⑧46.0⑨⑩45.8⑪46.0⑫⑬45.7⑭⑮46.5⑯⑰45.8⑱45.4⑲43.3		③多筆
28		②-④42.1 ●10.6		
29	家内安全/施主寺谷村/兵五郎	①42.0②45.0③45.2④45.5⑤⑥45.2⑦45.2⑧45.4⑨45.0⑩43.7⑪53.9⑫⑬54.3⑭47.2⑮47.5⑯47.0⑰47.2⑱10.4	一交了	
30	先祖代々/施主寺谷村/仙治良	①48.6②③53.0④39.5⑤1.8⑥⑦53.0⑧45.2⑨24.1		虫損等で欠損の文字を補写して書き足す

巻数	奥書・修理銘	料紙幅(cm)	校訂	特記事項等
31	為 先祖代々/施主/寺谷村 治兵衛	①49.6②51.4③51.5④48.8⑤48.7⑥48.5⑦⑧48.7⑨48.4⑩⑪48.3⑫48.5⑬49.0⑭⑮48.5⑯47.5⑰43.5/⑱7.1⑲5.1/⑳36.5/㉑32.4㉒42.0㉓12.2		
32	為 先祖代々/施主/寺谷村/治兵衛	①40.5②33.0/③47.5④47.7⑤48.0⑥⑦47.8⑧48.0⑨47.2⑩⑪47.2⑫⑬47.8⑭47.5⑮47.8⑯47.6⑰⑱47.4⑲47.7⑳10.5		
33	為 先祖代々/施主/寺谷村/儀兵衛	①51.0②54.3③53.8④49.3⑤⑥49.0⑦⑧49.2⑨⑩⑪49.5⑫⑬49.3⑭35.0	一交了	③と④の継目に文字がのる、同筆
34	為 春岸妙善信女/了涼月通性信士/壺施主寺谷村/長兵衛	①45.5②49.5③49.3④⑤49.5⑥⑦49.0⑧⑨49.2⑩⑪49.0⑫6.2	一交了	
35	為 義山実運信士/秋月道光信士/施主寺谷邑/安右衛門	①41.0②③44.4④44.8⑤⑥45.0⑦44.8⑧⑨45.0⑩⑪44.8⑫⑬45.0⑭44.8⑮⑯44.6⑰35.2		
36	弘化三丙午歳八月八吉 山王社鶴齋	①33.0②41.6③41.8 ④30.6⑤41.6⑥44.8		表紙裏面に「山王社鶴齋」の書き入れあり。
37	為 宝華池生信士/先祖代々/施主寺谷村/与一左衛門/同/作左衛門	①41.0②44.7③44.9④45.2⑤44.7⑥45.0⑦44.7⑧⑨44.5⑩⑪44.5⑫44.6⑬⑭44.7⑮44.3⑯44.2⑰11.2	一交了	
38	為 性円光徳信士/施主/寺谷村/徳左衛門	①42.1②44.3③44.5④⑤44.6⑥44.7⑦45.3⑧⑨44.8⑩⑪44.6⑫⑬45.0⑭42.8⑮39.1⑯⑰44.2⑱3.8	一交了	⑦朱筆の書き込みあり
39	為 先祖代々/施主/寺谷村/忠兵衛	①41.0②③44.3④44.3⑤⑥44.3⑦⑧44.4⑨42.6⑩⑪44.2⑫42.5⑬42.9⑭19.3	一交了	
40	為 深山喜廣信士/施主/寺谷邑 忠兵衛	①38.3②43.5③44.0④44.2⑤44.1⑥⑦44.0⑧⑨44.2⑩⑪25.0	一交了	
41	明徳五甲戌三月十七日 為 法山量源信士/施主/寺谷村/藤左衛門	①36.6②39.2③39.3④39.1⑤38.8⑥36.6⑦37.1⑧18.2⑨36.4/⑩12.0⑪⑫42.4⑬38.9⑭⑮42.3⑯7.3⑰34.2⑱⑲42.2⑳42.0㉑㉒42.5㉓20.0	一交了	③左端切断
42	為 法岸妙量信女/施主/寺谷村/藤左衛門	①33.4②41.9③42.3④42.2⑤29.5⑥16.7⑦7.8⑧28.4⑨44.0⑩44.3⑪44.0⑫43.7⑬44.2⑭44.6⑮43.4⑯42.8⑰43.2⑱44.5⑲44.3⑳44.5㉑44.3㉒38.6		⑦と⑧の継目の行間に1行書き足す
43	応永四丁丑六月七日 覚 息災延命/施主/寺谷村 忠兵衛内/まき	①37.8②③41.1④5.0⑤38.2⑥⑦39.2⑧38.9⑨38.8⑩38.9⑪38.6⑫38.6⑬38.8⑭32.0⑮38.5⑯39.1⑰39.5⑱38.6⑲39.9⑳38.0㉑9.8/㉒41.8㉓18.5/㉔23.8/㉕22.0/㉖41.5㉗43.5㉘41.8		①-⑲一筆、㉑-㉕一筆
44	為 先祖代々/施主/寺谷村/草左衛門	①37.9②40.1③11.9/④56.3⑤51.5⑥51.3⑦⑧51.5⑨⑩51.3⑪50.0/⑫46.5/⑬35.0⑭⑮56.1⑯18.5	一交了	④-⑬一筆、⑭-⑯で錯簡なし
45	為 一頓元乗居士/先祖代々/施主・寺谷村・庄太夫	①36.0②38.0③37.5④⑤38.5⑥39.0⑦38.7⑧39.0⑨38.8⑩⑪39.0⑫19.5⑬37.3⑭38.5⑮38.7⑯⑰39.0⑱38.8⑲37.2		②と③は同筆だが、継目で1行欠落 ⑭-⑰一筆で錯簡なし、⑱と⑲の継目に文字の、⑱-⑲で錯簡なし
46	為 一翁清桃太姉 /施主/寺谷村/庄太夫	①33.5/②36.1③38.5④38.9⑤38.8⑥38.3⑦38.8⑧38.2⑨38.8⑩38.2⑪⑫38.5⑬⑭38.7⑮34.5⑯37.5⑰26.3		
47	明徳五年甲戌三月十一日 令書写了 為 春山良慶信士/施主/寺谷村/庄太夫	①21.0②17.7③13.3④27.4⑤無量百千42.4⑥42.5⑦⑧42.7⑨26.2	一交了	
48	為 徳心道隣信士/先祖代々/施主/寺谷村/栄助/善兵衛	①11.5/②32.5③④47.5⑤47.8⑥49.0⑦49.8⑧⑨49.5⑩52.2⑪52.5/⑫49.3⑬49.1⑭46.5⑮51.6⑯49.2⑰48.6	一交了	
49		②42.0		
50	為 定性童子 施主/寺谷村/伊兵衛	①②36.8③38.2④⑤38.9⑥31.5		
51	商売昌栄 施主/柅木村/治兵衛	①45.3②50.1③44.6/④49.3⑤49.2⑥⑦49.5⑧49.0⑨49.6⑩49.3⑪⑫49.5		③と④で料紙の色異なるが、同筆で錯簡なし 木箱(巻第51-第100)のつまみ欠失 巻51~60の帙表紙裏「柅木村銘々」
52	商売繁栄/施主/柅木村/与兵衛	①49.0②53.2③53.7④54.0(糊代含め55.0)⑤⑥53.5⑦54.0⑧⑨54.3⑩54.0⑪54.1⑫54.0⑬54.2/⑭⑮49.3		朱書き込みあり
53	家内安全/施主/柅木村/勝三郎/忠兵衛/市太郎/茂右衛門/直次郎/仁兵衛/政次良	①47.7②51.5③④51.3⑤⑥51.8⑦51.5⑧52.0⑨51.8⑩51.6⑪⑫51.8⑬30.8	一交了	
54	法性常恵信士/諦覚妙空信女/施主 柅木村/林兵衛/芳兵衛	①42.6②47.5③49.2④⑤49.0/⑥46.0⑦46.5⑧45.5⑨48.7⑩46.5⑪45.5⑫45.7⑬45.5⑭45.7⑮45.5⑯43.2⑰⑱45.3⑲45.0⑳21.9		①の行間に1行(「及應遠離…摩訶薩」)書き足す、①最後の行重複
55	先祖代々/施主 柅木村/長兵衛	①41.5②44.3③46.1④45.5⑤43.5⑥2.4(1行)⑦46.8⑧46.2⑨45.6⑩46.5⑪46.3⑫46.5⑬45.5⑭⑮45.7⑯45.3⑰7.5		
56	先祖代々/先祖代々/施主 柅木村/弥次兵衛/茂兵衛	①41.2②44.8③46.2④46.0⑤⑥46.0⑦46.2⑧46.5⑨45.0⑩46.2⑪46.2⑫45.0⑬46.3⑭⑮44.8⑯45.2⑰44.8⑱45.9⑲44.6⑳45.0㉑28.2		
57	先祖代/施主 柅木村/弥兵衛/猶右衛門	①44.5②49.3③49.5④⑤49.6⑥49.3/⑦⑧45.5⑨⑩45.5⑪11.5	一交了	
58	昌山浄栄信士/清雲妙智信女/施主柅木村/九兵衛	①45.0②③49.0④49.5⑤49.0⑥⑦49.0⑧⑨49.0⑩⑪49.0⑫⑬44.0⑭⑮44.6⑯45.0⑰⑱44.5⑲44.5⑳31.3		⑦の途中から手が変わる それまでと⑩以降は同筆 ⑩-⑱で錯簡なし
59	其か屋妙理信女/寛月道融信士/月峯妙融信女/丹峯妙仙信女/施主柅木村 源右衛門	①41.6②45.5③46.2④46.5⑤46.2⑥46.5⑦45.8⑧46.4⑨46.0⑩45.5⑪46.0⑫46.2⑬45.8⑭45.3⑮47.1⑯⑰45.8⑱45.3⑲38.3		
60	応永四丁丑六月九日 白順清桃信士/鏡岳妙照信女/施主柅木村/猶右衛門/平右衛門/莊兵衛/勝三郎	①51.0②③54.5④54.3⑤⑥54.5⑦54.3/⑧43.8⑨43.5⑩15.2		

巻数	奥書・修理銘	料紙幅(cm)	校訂	特記事項等
61	信心堅同願成就/施主池谷村/山本氏源兵衛	①51.6②53.1③57.3④-⑦53.2⑧45.2⑨⑩45.4⑪-⑬45.3⑭37.5	一校畢	①で誤字8文字を切り取り、別の経巻の該当部分を貼る(もとの界線あり)、補筒
62	宝岸寿啓居士/宝月寿貞信女/先祖代々/施主池谷村 小池宗兵衛	①27.0②30.8/③27.5④39.2⑤-⑧43.6⑨-⑫44.0⑬-⑭43.5		後半に別紙料紙表面に張り付く
63	応永四丁丑六月十二日 宝岸浄翁信士/觀光定戒信士/施主池谷村/忠三郎/同村吉兵衛志/王子四良兵衛	①46.0②13.0/③12.7/④22.1⑤-⑫49.2⑬45.5/⑭43.5⑮43.2⑯-⑲44.0⑳43.5㉑15.9		②の左端にもとの③の文字右端が残る、③は補写か ④の途中で手が変わる
64	先祖代々/施主池谷村/与治右衛門/清治郎	①34.3②5.2/③2行3.4④46.0⑤46.5⑥46.7⑦46.2⑧46.7⑨⑩47.2⑪46.8⑫47.0⑬-⑯46.7⑰⑱47.0⑲46.8⑳28.8		①と②は同筆で③以降とは異筆、①-④で錯簡なし
65	覚応浄願信士/円応妙覚信女/安養妙心信女/施主池谷村/吉兵衛	①30.1②37.8③37.9④18.0/⑤46.3⑥46.6⑦47.0⑧47.1⑨⑩47.0⑪46.0⑫⑬47.3⑭47.5⑮-⑲47.7⑳15.3	一校了	⑤-⑲一筆か、①-⑤で錯簡なし・別紙料紙表面に張り付く。逆さ文字
66	覚阿清心信士/無縁法界/施主池谷村伊左衛門 /同村/忠左衛門	①30.6/②12.9③48.9④49.0⑤-⑧49.2⑨49.3⑩38.0⑪9.5⑫-⑮48.0⑯⑰47.8⑱47.8⑲20.2	一校了	①と②で界高のずれ大、②-⑲一筆
67		①25.5/②15.4③44.1④43.8⑤-⑫44.0⑬44.2⑭-⑰44.0⑱43.6⑲43.8⑳28.0	一校了	②-⑲一筆 朱点あり
68		①43.7②43.9③44.2④44.1⑤44.5⑥-⑧44.2⑨44.5⑩43.1⑪44.5⑫-⑭44.3⑮⑯44.5⑰-⑲44.2⑳16.5		
69		①40.5②44.0③43.6④-⑲44.0⑳45.4	一校了	
70	施主池谷村/ 元三郎	①46.0②49.0③-⑤49.3⑥49.0⑦⑧49.2⑨-⑬49.5/⑭18.6⑮31.7⑯⑰51.3⑱51.4⑲48.0⑳2.6㉑27.3	一校了	⑬-⑮一筆 ⑱の左端に1行書き足す、㉑の文字の右端⑱の料紙にのる
71	施主 池谷村/先祖代々/先祖代々/庄右衛門 兵太夫/善兵衛 藤兵衛/定兵衛 太兵衛/久左衛門 兵治良/以上(本紙)	①39.1②46.6③46.8④46.9⑤-⑪46.8/⑫-⑮43.2⑯1行1.8⑰40.3⑱43.0⑲42.8⑳41.3㉑55.0㉒30.3		巻71~80の帙表紙裏「天保十四癸卯/四月 施主/池谷村 銘々」
72	心元義空信士/先祖代々/施主池谷村/利兵衛/伊三良	①45.8②49.1③④49.5⑤45.5⑥38.0⑦-⑪49.5⑫38.2⑬⑭32.5⑮⑯49.5⑰49.7⑱42.5		
73	観月妙光禪定尼/観光量啓禪定門/施主/池谷村/市兵衛	①45.1②47.5③-⑦47.0⑧⑨47.1⑩-⑬47.5⑭47.0⑮47.5⑯-⑲47.3⑳9.5		
74	清雲自光信士/清室妙光信女/施主池谷村 作兵衛	①47.8②48.8③47.2④-⑲49.3⑳31.9		
75	応永四丁丑六月十三日	①51.2②53.3③52.4④-⑥53.4⑦2.0(1行)⑧50.5⑨⑩53.0⑪25.9⑫43.6⑬43.8⑭43.5⑮43.8⑯⑰43.5⑱38.9		⑩と⑪で錯簡なし・継ぎ目に別紙文字表紙表面に張り付く
76	先祖代々/施主池谷村/治兵衛	①17.0/②30.1/③-⑤46.3⑥-⑧46.5⑨⑩46.2⑪46.5⑫⑬46.0⑭⑮46.2⑯38.4		②は③以降と異筆、錯簡なし、②は補写か ③-⑯一筆 補修紙有、巻第597の首題部分を転用する
77	先祖代々/光月妙恵信女/施主池谷村/重右衛門/九兵衛	①39.5②44.6③-⑮45.0⑯44.8⑰⑱45.0⑲30.2		
78	円覚義法禪士/観月照順信士/安月妙光信女/施主池谷村/清兵衛	①37.8②2.0/③12.1④51.4⑤-⑧51.3⑨-⑪51.0⑫-⑭51.2⑮51.0⑯48.0/⑰12.5/⑱13.0		①と②は同筆、③-⑯は同筆、①②と③は異筆、①-④、⑬-⑱で錯簡なし ⑰は⑬⑱と異筆で界高のずれ、錯簡なし ①② ⑰は補写か
79		①44.2②49.5③50.0④⑤49.8⑥48.5⑦48.8⑧⑨48.5⑩48.8⑪-⑮48.5⑰21.4		
80	先祖代々/施主池谷村/弥次兵衛	①43.0②-⑱45.3⑳28.1		別紙文字料紙表面に張り付く
81	林啓徳翁禪定門/林光妙周信女/施主長谷村/義三藏	①33.1②37.2/③43.4④43.7⑤⑥43.3⑦23.5/⑧34.7⑨54.3⑩54.2⑪54.4⑫-⑰54.5⑱52.2		①と②は同筆、③-⑦一筆、②と③は異筆 ⑦と⑧の継目の紙背にマーク(印)あり
82	春山明覚信士/先祖代々/先祖代々/施主長谷村/辰五郎/六兵衛/政次良	①47.3②49.1③-⑤49.6⑥44.6⑦49.5⑧50.0⑨⑩49.6⑪-⑬50.2⑭50.4⑮50.3⑯30.0		⑥の文字が⑤⑦との継目にのる
83	秋月浄観信士/智岡妙涼信女/施主長谷村/兵助	①47.6②49.9③49.6④-⑮50.0⑯42.4		墨書書込みあり
84	施主長谷村/九兵衛/幸左衛門/八百藏/作平/喜兵衛/義三郎/庄吉/嘉兵衛	①46.2/②1行2.8③48.7④⑤49.0⑥48.8⑦⑧49.0⑨49.2⑩48.8⑪⑫49.1⑬48.5⑭48.9⑮49.0⑯48.8⑰18.7		①と②③は異筆、錯簡なし、①は補写か
85	先祖代々/施主長谷村/弥三郎	①48.5②③50.3④50.6⑤48.8⑥⑦49.0⑧49.3⑨-⑮49.0⑯6.7		④と⑤の継目に文字のる
86	先祖代々/施主長谷村/与左衛門	①15.7/②34.4③50.0④50.3⑤⑥50.0⑦50.3⑧-⑫49.0⑬-⑱48.7⑲10.6		墨書書込みあり
87	円峯妙相信女/台岳常円信士/施主長谷村/弥平次	①47.7②③49.7④49.9⑤-⑮50.0⑯39.3		別紙文字料紙表面に張り付く
88	先祖代々/施主長谷村/徳右衛門	①48.0②③49.6④⑤49.7⑥-⑱49.8⑲48.1		別紙文字料紙表面に張り付く箇所が数か所あり
89	先祖代々/施主長谷村/作兵衛	①47.0②49.4③49.2④49.4⑤49.1⑥-⑱49.1⑲25.7⑳22.0㉑27.1		墨書書込みあり
90	心岸了源信士/施主長谷村 久右衛門/五巻之内	①25.8/②25.5③50.0④-⑥50.4/⑦48.8⑧-⑱48.5⑲48.6⑳48.6㉑48.2㉒16.6		①と②は異筆、①は補写か
91	維時弘化四丁午年三月 永野弘孝謹書写之	②42.0		
92	秋山了海信士/施主長谷村/久右衛門/五巻之内	①47.2/②40.5③45.0④44.7⑤45.2⑥45.0⑦45.2⑧⑨45.2⑩45.5⑪45.5⑫44.8⑬45.4⑭-⑰45.2⑱15.7		墨界なしの箇所あり 錯簡なし
93	春光妙円禪定尼/施主長谷村/久右衛門/五巻之内	①44.5②43.0③44.2④45.6⑤44.7⑥-⑧45.7⑨45.2⑩-⑫47.7⑬44.8⑭⑮45.1⑯44.8⑰8.0		墨界なしの箇所あり 貼紙あり
94	春山宗悦信士/施主長谷村/久右衛門/五巻之内	①7.8②43.5③34.7/④38.0⑤44.8⑥45.3⑦-⑱45.2⑲⑳44.7㉑44.8㉒45.1㉓40.0㉔44.8㉕19.5		墨界なしの箇所あり ③と④の継目の紙背にマークあり

巻数	奥書・修理銘	料紙幅(cm)	校訂	特記事項等
95	知法妙性信女/施主長谷村/久右衛門 / 五巻之内	①39.0②41.4③39.8④54.0⑤40.6⑥40.1⑦39.8⑧40.0⑨40.7⑩40.3⑪39.2⑫37.5⑬39.8⑭18.39.2⑮39.5⑯17.5		継目でない⑬の紙背にマークあり、文字薄い、別紙文字料紙表面に張り付く
96	応永四年丁丑六月十八日 先祖代々/施主長谷村/宗左衛門	①33.8②39.0③16.5④53.8⑤36.3⑥39.3⑦4.8⑧-⑩44.2⑪44.2⑫44.0⑬-⑭44.2⑮-⑯44.5⑰41.0		
97	先祖代々/施主長谷村/定右衛門	①45.4/②34.4③-④40.0⑤-⑥40.2⑦18.8		②以降で墨界なしの箇所あり
98	寂月浄光信士/寂岸教覚信士/実/施主 長谷邑・彌治兵衛	①29.9/②12.0③46.4④-⑤46.6⑥7.0		①と②③は異筆、脱字、錯簡なし、①は補写カ 補写のあとに水滲
99	先祖代々/施主長谷村/治兵衛	①45.1②49.0③-④49.2⑤⑦48.7⑧-⑩48.9⑪48.5⑫-⑬48.9⑭47.0⑮12.9		朱字書込みあり
100	施主長谷村/善右衛門/伊右衛門/善三 良/フサ/清右衛門/八良兵衛/義右衛門	①46.1②2.0③-④50.1⑤⑦50.7⑧-⑩50.2⑪-⑬50.7⑭43.9⑮13.7⑯⑰6.8⑱43.5		⑮補写カ、錯簡なし、墨書書込みあり
101		①13.0②22.8③40.8④38.8⑤40.3⑥40.6⑦40.2⑧40.0⑨13.3⑩29.5⑪19.0⑫47.6⑬47.5⑭47.7⑮47.4⑯47.4⑰47.7⑱47.2⑲-⑳36.5		⑨-⑩と⑫-⑰は同筆、⑨の界高は⑩、⑫とズレ、⑩と⑪で「眼」が重複、⑧と⑩は同筆で補写カ 木箱(巻第101-第150)左側板、奥板の釘欠失、蓋の上下棧外れる
102		①11.0②40.5③10.3④32.5⑤45.3⑥47.5⑦⑧47.2⑨47.5⑩⑪47.2⑫-⑬47.5⑭27.8	一交了	④と⑤で錯簡なし
103	為 清岳良浄信士 心窓妙安信女 頓証 菩提/弘化三丙午歳霜月下旬於清養山/ 法泉寺性善房 書之	②42.5		
104		①14.0/②42.8③9.4/④1.7⑤⑥47.5⑦47.8⑧-⑨47.5⑩18.7	一交口※	③と④で錯簡なし ④(1行)と⑤は同筆 ※校訂の口は削除痕
105		①21.6②31.1/③38.6④-⑤47.8⑥-⑦47.3⑧⑩-⑪47.6⑫47.8⑬-⑭47.6⑮18.0	一交了	②と③で錯簡なし ⑨と⑩の継目で「空」が重複
106		①22.0/②18.0/③38.5④40.0⑤41.0⑥40.0⑦⑧40.5⑨-⑪41.0⑫⑬40.5⑭20.0⑮39.2⑯40.0⑰38.9⑱39.5⑲39.0⑳-㉑39.0㉒30.6		①-③で錯簡なし ⑭と⑮で錯簡なし 改修時の料紙の長さの調整のためか、文字行や行間を詰めて短く隙間をつくって伸ばす箇所あり
107		①36.0②-④39.5⑤⑥39.5⑦38.8⑧39.2⑨-⑪39.4⑫38.5⑬38.8⑭38.5⑮37.5⑯48.5⑰48.7⑱37.2⑲2.3	一交了	①-⑮一筆、⑯-⑲一筆、⑳と㉑で錯簡なし
108		①7.0②38.5③21.4/④12.8⑤41.5⑥41.2⑦17.5⑧38.6⑨20.5⑩19.6⑪10.0⑫34.6⑬47.3⑭-⑮48.9⑯-⑰48.6⑱14.6⑲42.0㉑11.3/㉒48.8		①-③一筆 ⑬-⑰一筆 ③と④ ⑫と⑬の継目で各1行重複し界線がずれる、補簡
109		①36.5②40.0/③37.0④40.6⑤44.3⑥29.0⑦38.8⑧39.0⑨39.2⑩37.6⑪8.9⑫⑬48.7⑭47.2⑮43.8⑯-⑰43.5⑱9.5/㉑31.6		③-⑥一筆、⑨-⑫一筆、⑧と⑨は異筆だが同時期カ ⑭と⑮、⑱と㉑で錯簡なし 墨界なしの箇所あり
110		①18.6②23.2③44.5④⑤45.1⑥45.3⑦⑧44.9⑨45.4⑩-⑬45.2⑭43.2⑮48.8⑯46.7⑰43.5⑱-⑲45.0㉑11.0	一交了	
111		①49.6②53.5③53.7④53.8⑤53.1⑥-⑧53.3⑨53.9⑩-⑮53.6⑯12.8	※	※一交了 又校了
112		①50.0②③53.7④53.8⑤53.6⑥-⑧53.5⑨⑩51.3⑪⑬51.0⑭45.5	※	※一校了 又校了
113		①47.5②③51.2④-⑤51.0⑥51.2	※	※一交了 又校了
114		①43.8②51.0③51.5④54.0⑤53.3⑥52.0⑦52.8⑧-⑩53.5⑪31.2	一交了 又校了	①の一部で裏打紙に補写(江戸時代)、それ以外は一筆
115		①50.0②53.4③53.2④53.3⑤53.2/⑥⑦48.0⑧46.0⑨⑩48.0⑪-⑬47.8⑭47.5⑮19.8		①の一部では裏打紙に補写(江戸時代)、それ以外は一筆
116		①44.0②47.5③48.0④47.8⑤⑥48.3⑦⑧48.5⑨48.3⑩-⑬48.5⑭⑮48.0⑯47.6⑰14.5	一交了 又校了	①の一部では裏打紙に補写(江戸時代)
117		①22.5②35.5/③32.7④43.0⑤43.2⑥43.7⑦9.9/⑧4.9⑨-⑫48.1⑬49.8/⑭32.6⑮43.5⑯43.3⑰40.8界高①②20.0③-⑦20.1⑧-⑩20.0⑪-⑫20.0		⑦と⑧、⑬と⑭で錯簡なし ③-⑦と⑩-⑫とは同筆 応永の奥書は巻末本文と墨色異なり異筆だがほぼ同時期カ ③と④の継目の紙背にマークあり
118		①36.7②38.0③16.2④47.5⑤47.6⑥48.0⑦⑧50.0⑨-⑪50.2⑫⑬49.0⑭49.5⑮48.0⑯50.0⑰18.6	一校了 又校了	③と④で錯簡なし、①-③一筆、④以降一筆
119		①46.0②49.8③50.1④-⑤50.0⑥46.1	※	※一校了 又校了
120		①47.5②-⑦51.2⑧47.3⑨47.5⑩-⑫47.3⑬-⑭47.1⑮39.2	※	※一校了 又校了
121	弘化四末歳正月廿六日写之/霊嶺	②47.2		
122		①44.7②44.8③④45.7⑤45.7⑥45.4⑦45.0⑧⑨45.6⑩45.3⑪45.5⑫-⑬45.1⑭45.7⑮⑯45.4⑰45.0⑱10.1		⑱(巻末4行と尾題)は錯簡、本来は巻第509、巻第509の当該部分は江戸の補写
123		①24.8②39.5③-④50.0⑤⑦45.5⑧-⑩45.3⑪⑬45.7⑭⑮45.5⑯41.2	一校了	①②と③は同筆、⑩と⑪は同筆
124	干時弘化二乙己歳/七月晦日 書写之/ 天台沙門即因印(朱文方印)	②42.0		
125	秦是里女財田氏	①48.6②-④52.0⑤52.2⑥52.0⑦52.3⑧⑩-⑬52.0⑭52.2⑮51.9⑯39.0		
126	応永四丁丑六月晦日 覚舜	①43.2(E補写含む)②49.0③49.5④40.0/⑤7.8⑥39.5⑦⑧44.0⑨43.0⑩44.0⑪-⑬43.5⑭44.0⑮⑯43.0⑰43.5⑱⑲43.2⑳40.5		④と⑤で錯簡なし、④の左端に切断跡の半切文字あり ①の1行目は江戸補写

巻数	奥書・修理銘	料紙幅(cm)	校訂	特記事項等
127	仲山寺 経一部内/願主賢照/長治(二カ?)年歳次乙酉 九月十日 甲辰始之筆取僧應実	①14.4②1.6(1行)③④53.5⑤53.1⑥53.2⑦53.3⑧⑨53.7⑩54.0⑪51.5⑫49.6⑬39.8⑭38.6⑮47.8⑯37.5	一校了	①と②(1行)の間に20行弱の欠落あり ②-⑧、⑩-⑯で錯簡、脱落なし「一校了」(墨色ことなる)
128	仲山寺大般若経一部/長治二年乙酉九月十日 甲辰 始奉書写 矣 願主僧賢照/筆師僧舜意也	①48.8②53.5③-⑤54.0⑥53.6⑦-⑨54.0⑩53.1/⑪27.4/⑫34.1⑬53.7⑭15.8	校了	⑩(11行)は補写
129		①43.7②46.7③-⑤47.0⑥-⑮46.9⑯46.8⑰26.1	※	途中で手がかわる ※一校了(朱) 二校了、⑮朱書込みあり
130		①43.7②-④47.2⑤⑥47.2⑦-⑨47.0⑩⑪47.3⑫-⑭47.0⑰45.4⑱9.5	※	※一校了(朱)、⑨朱筆訂正あり
131		①27.5②-④47.7⑤-⑧47.6⑨47.8⑩-⑭47.6⑰40.7		
132		①43.5②③47.5④47.7⑤47.5⑥47.8⑦⑧47.5⑨45.7⑩45.5⑪-⑬45.6⑭43.5⑮44.0⑯32.0	※	※一校了(朱) 又校了
133		①44.0②47.5③48.0④-⑥47.8⑦47.5⑧47.7⑨47.9⑩45.6⑪-⑬45.9⑭⑮45.6⑯20.2	※	※一校了(朱) 又校了、墨書書込みあり
134		①43.8②-④47.5⑤47.9⑥47.7⑦-⑨45.6⑩45.9⑪⑫45.7⑬-⑮45.5⑯45.2⑰42.1		上部に朱字書込みあり
135		①41.5②③47.7④47.8⑤⑥47.5⑦47.7⑧⑨47.5⑩-⑫45.5⑬46.0⑭45.8⑮⑯45.9⑰32.9	一校了(朱)	朱字・墨書書込みあり
136		①44.2②46.6③46.5④⑤46.6⑥-⑮46.2⑰44.0⑱-⑲46.0⑳45.6㉑9.5.2	※	※一校了(朱)、朱字・墨書書込みあり
137		①41.9②46.0③46.0④46.5⑤⑥46.2⑦46.5⑧45.8⑨46.2⑩⑪46.0⑫45.5⑬45.8⑭45.6⑮45.9⑯47.9⑰47.2⑱31.5	※	※一校了(朱) 一校了 墨書書込みあり
138		①40.0②46.2③46.5④46.2⑤45.8⑥46.4⑦46.0⑧-⑯46.2⑰45.8⑱20.0	※	※一校畢(朱) 墨書書込みあり
139		①40.5②-④46.5⑤46.2⑥46.4⑦46.2⑧46.0⑨46.3⑩12.5	※	※一校了(朱) 又一校了 朱字・墨書書込みあり
140		①39.2②-④46.5⑤-⑮46.5⑰46.0⑱46.2⑲45.6⑳45.9㉑45.8㉒46.2㉓22.6	※	※一校了(朱) 又一校了 朱字・墨書書込みあり
141		①45.2②-④47.5⑤47.8⑥-⑮48.0⑰40.1/⑱10.7		⑮本文と⑱(尾題のみ)は異筆、墨書書込みあり
142		①43.5②47.4③47.7④47.5⑤47.8⑥-⑨47.5⑩47.9⑪47.8⑫48.0⑬47.9⑭⑮47.7⑯47.9⑰47.5⑱47.0⑲22.2		巻第141と同筆、墨書書込みあり
143		①43.6②③47.5④47.7⑤47.7⑥47.9⑦-⑨48.1⑩47.9⑪47.7⑫⑬47.6⑭⑮47.9⑯46.2⑰43.5	※	巻第141と同筆 ※一交了(朱) 一校了、墨書書込みあり
144		①45.1②47.2③47.4④47.5⑤44.5⑥47.8⑦⑧47.9⑨⑩47.5⑪⑫47.9⑬48.0⑭47.9⑮47.7⑯47.8⑰47.5⑱24.1	※	⑤が短いのは脱行による余白の裁断のためか(行間に1行加筆、前後に錯簡なし) 巻第141と同筆 ※一交了(朱) 又一校了 墨書書込みあり
145		①45.6②-⑤47.5⑥⑦45.0⑧46.5⑨46.2⑩-⑲46.5⑳46.2㉑23.9	※	巻第141と同筆 ※一交了(朱)、又校了
146		①45.2②-④47.5⑤44.6⑥46.1⑦⑧46.5⑨47.2	※	巻第141と同筆 ※一交了(朱) 二校了、朱字・墨書書込みあり
147		①45.2②③47.5④47.3⑤⑥47.5⑦45.0⑧-⑲46.3⑳46.5㉑46.4㉒44.5		巻第141と同筆、墨書書込みあり
148		①45.2②47.0③-⑦47.2⑧41.6⑨⑩46.3⑪⑫46.0⑬⑭46.2⑮46.4⑯⑰46.6⑱46.3⑲46.4⑳40.5	※	⑧と⑨で錯簡なし、⑧は改装時に少し短く切られる 巻第141と同筆 ※一校了(朱) 一校了、墨書書込みあり
149		①46.2②47.6③-⑤48.0⑥47.9⑦48.2⑧48.0⑨48.2⑩47.8⑪-⑬48.0⑭47.8⑮44.9	※	途中までは巻第141と同筆 ※一交了(朱) 二校了、墨書書込みあり
150		①43.5②47.3③47.4④47.2⑤47.8⑥47.5⑦⑧47.7⑨47.6⑩47.7⑪47.5⑫⑬47.9⑭⑮47.7⑯27.1	※	※一交了(朱) 又一校了、墨書書込みあり
151	天承元年六月廿三日 石峯寺借執筆秀/一交了(異筆) 天応了月信士/施主友清村/徳左衛門	①42.8②③-⑮46.5⑰43.6⑱26.8H20.3/⑲41.6H20.3/㉑9.1H20.3	一交了	奥書のみ⑲は⑱(尾題含む)と異筆、⑲までの本文とは同筆カ 木箱(巻第151-第200のつまみ欠失、朱字・墨書書込みあり)
152	天保十四年癸卯年六月/施主友清村/徳左衛門/家内安全	①42.4②46.3③46.2④-⑲46.5⑳30.0	※	巻第151と同筆 ※一交了(朱)
153	家内安全/施主友清村/銀兵衛	①44.5②46.7③-⑤46.7⑥42.5⑦-⑱46.7⑲⑳46.5/⑲44.5⑳45.2㉑31.8	一交了(朱)	巻第151と同筆、修理後補筆
154	家内安全/施主友清村/茂三郎	①25.4②③38.4④⑤38.2⑥16.5/⑦29.2⑧43.8⑨2.0⑩46.6⑪44.1⑫1.6⑬36.3⑭9.7⑮46.5⑯46.3⑰46.5⑱41.8⑲2行4.0善男子 修㉑46.2⑲-㉓46.5㉔46.1㉕42.9	一交了	⑥と⑦の継目で2字重複、⑥以前と⑦以降の欠落部分の補写とは同筆 ⑦以降は巻第151と同筆、墨書書込みあり
155	如蓮自照信士/施主友清村/太三郎	①42.5②46.5③46.3④46.3⑤46.0⑥46.5⑦-⑨46.0⑩46.0⑪46.5⑫⑬46.0⑭⑮46.5⑯46.0⑰17.0	一交了	巻第151と同筆、墨書書込みあり
156		①42.8②46.7③-⑤46.3⑥42.1⑦-⑱46.3⑲3.2		⑧と⑨は同筆、墨書書込みあり
157		①16.5/②25.0③44.6④44.3⑤44.1⑥-⑲44.5⑳42.3	一交了	墨書書込みあり
158	先祖代々/施主友清村/宗五良	①41.0②-⑮44.7⑯45.1⑰-⑲44.8⑳46.1⑱15.6	一〇口	⑰では文字の濃淡を変えてデザインする、文字が薄くなる部分あり。表面がはがれた?
159	家内安全/施主友清村/宗五良	①19.2/②38.3③38.6④37.3/⑤33.3⑥-⑧46.3⑨46.5⑩-⑮44.4⑰⑱46.3⑲46.1⑳43.7㉑47.6㉒18.0	一交了	④と⑤の継目で2字欠字(「舌身」、補簡) ⑤以降は巻第155と同筆、墨書書込みあり
160	一交了(異筆)/如意寺常住	①45.1②-⑦46.5⑧45.0⑨47.2⑩⑪46.5⑫47.5⑬⑭47.0/⑮45.0⑯30.1	一交了	墨書書込みあり

巻数	奥書・修理銘	料紙幅(cm)	校訂	特記事項等
161	天保十四癸卯年六月/施主友清村/藤右衛門/台峯理観信士/台峯理覚信女	①45.8②③-⑥48.2⑦47.5⑧-⑬48.2⑭48.0⑮-⑲48.2⑳3.7	一交了	墨書書込みあり
162	先祖代々/施主友清村/藤兵衛	①45.6②-⑱48.0⑳48.2⑳-⑳48.0㉑27.8		墨書書込みあり
163	先祖代々/施主友清村/藤右衛門	①44.9②40.4③15.5/④46.5⑤48.4⑥-⑧48.3⑨48.5⑩-⑬48.1⑭47.7⑮12.5	一交了	④以降は巻第164と同筆か、墨書書込みあり
164	家内安全/施主友清村/藤右衛門	①45.7②47.7③-⑥48.3⑦48.0⑧-⑱48.2⑳47.8㉑17.0	一交了	墨書書込みあり
165	国家安全/施主友清村/藤右衛門	①45.0②47.8③48.0④-⑦48.3⑧-⑱48.6⑳48.7㉑-⑳48.0㉒48.2㉓39.5		墨書書込みあり
166	家内安全/家内安全/施主友清村/与左衛門/同/安太郎	①44.0②47.8③47.9④48.1⑤-⑱48.2㉑7.2	一交了	
167	家内安全/施主友清村/嘉兵衛	①44.5②48.4③48.2④48.5⑤48.2⑥27.5/⑦33.2/⑧20.0⑨48.6⑩47.8⑪47.9⑫48.3⑬48.1⑭48.0⑮48.4⑯47.8⑰29.5/⑱41.5/⑲24.0⑳8.9奥書	一交了	①-⑥⑧-⑱⑲⑳は一筆、⑥と⑦と⑧で錯簡なし、墨書書込みあり
168	先祖代々/施主友清村/岩二良/先祖代々/同/源右衛門	①44.3②48.4③48.5④-⑩48.5⑪48.7⑫⑬48.3⑭47.7⑮48.2⑯47.5⑰44.4	一交了	墨書書込みあり、㉑のはじめの1行目の文字に○の墨書囲み
169	大法理覚信士/施主友清村/源兵衛門	①44.0②48.0③48.3④-⑥47.9⑦-⑨46.4⑩-⑲48.2⑳16.5	一交了	朱字の書込みあり
170	先祖代々/施主友清村/与左衛門	①43.8②48.1③-⑦48.2⑧48.0⑨-⑱48.2㉑47.6㉒14.8	一交了	墨書書込みあり
171	隻屋定謙信士/施主友清村/喜右衛門	①20.9H20.4②33.7/③52.9H20.3④⑤54.6/⑥46.2H20.2⑦47.8⑧48.0⑨48.1⑩48.4⑪47.8⑫38.1/⑬28.7⑭39.5⑮39.3⑯23.2⑰17.7⑱34.5⑲23.4⑳29.3		①②は補写(②欄外に「空」を書き加える) ③-⑱⑲-⑳一筆、⑬-⑱一筆 ②と③、⑤と⑥、⑮と⑯と⑰、⑱と⑲で錯簡なし、墨書書込みあり
172	先祖代々/施主友清村/喜右衛門	①21.2②1.5③36.1④14.9/⑤32.8⑥⑦54.8⑧43.8/⑨42.5⑩43.0⑪39.5/⑫35.4⑬49.3⑭49.2⑮49.4⑯49.1⑰47.8/⑱21.0⑲43.6⑳43.5㉑43.7㉒21.0		①-④一筆、⑬-⑱一筆 ①-⑤、⑧と⑨、⑩と⑱で錯簡なし、墨書書込みあり
173	先祖代々/施主友清村/宗兵衛	①-③54.9④55.7⑤55.0/⑥46.6⑦48.2⑧48.8⑨-⑱48.5⑲-⑳46.0㉑43.7	一交了	⑤と⑥は同筆、錯簡なし、墨書書込みあり、修正の表現
174	先祖代々/施主友清村/善治良	①51.0②54.6③54.7④54.6⑤50.1⑥⑦⑧50.7/⑨14.4⑩44.0⑪43.3⑫⑬43.5⑭14.7⑮⑯43.9/⑰40.2⑱45.6⑲21.3	一交了	①-④と⑤-⑧と⑩-⑱は同筆か、墨書書込みあり
175	先祖代々/施主友清村/義兵衛	①51.8②54.2③54.5④⑤54.7/⑥42.0⑦44.0⑧44.3⑨43.8⑩⑪28.8/⑫48.6⑬48.3⑭48.5⑮48.6⑯47.1⑰54.4⑱32.2	一交了	⑤と⑥、⑩と⑱で錯簡なし
176	家内安全/家内安全/施主友清村/猶治良/同/作兵衛	①50.6②③④54.5⑤54.9⑥46.1⑦46.4⑧46.5⑨-⑱45.4⑲44.5⑳46.5㉑4.2	※	①-⑤と⑥以降とは同筆か、界線のずれあり ※巻末に裁断、文字痕あり、一交了か
177	家内安全/施主友清村/善治良	①48.9②54.2③54.5④54.6⑤53.5⑥46.0⑦48.3⑧-⑱48.2⑲46.5⑳48.5㉑48.3㉒48.5㉓45.8㉔35.2	一交了	墨書書込みあり
178	先祖代々/施主友清村/幸左衛門/常三郎/義三良/栄蔵	①49.2②54.7③54.5④⑤54.9⑥⑦46.5⑧46.4⑨46.8⑩-⑱46.5⑲46.7⑳42.2㉑52.5㉒⑳4.2㉓9.4	一交了	墨書書込みあり
179	先祖代々/施主友清村/佐右衛門	①46.5②③50.9④50.5⑤49.4/⑥44.3⑦46.0⑧46.3⑨46.5⑩-⑱46.3⑲46.5⑳46.3⑳42.8㉑33.8㉒44.0/㉓15.3㉔54.6㉕53.5㉖52.0㉗11.9	一交了	①-⑤一筆、⑬-⑱一筆、⑰と⑱で錯簡なし、墨書書込み
180	先祖代々/施主友清村/銀兵衛	①46.7②42.6③50.4④50.7⑤49.2/⑥44.5⑦46.1⑧46.9⑨46.8⑩46.6⑪46.9⑫⑬46.5⑭46.7⑮46.8⑯42.8/⑰51.8⑱54.4⑲47.5	一交了	墨書書込みあり
181		①40.0②41.2③40.9/④40.9⑤41.4⑥⑦41.2⑧40.8⑨41.2⑩41.5⑪-⑱41.0⑲41.3⑳40.5㉑19.2		③と④の継目で③の文字左端が切れる、㉑に誤記入あり
182		①9.0②41.1③④41.3⑤-⑱41.5/⑲24.7⑳40.1㉑40.3		①-⑱は巻第181の①-③と同筆か ㉑以降に墨界なしの箇所あり
183		①40.0②③41.2④⑤41.4⑥40.4⑦⑧41.0⑨41.2⑩40.6⑪⑫41.4⑬40.7⑭41.2⑮40.6⑯⑰41.0⑱39.9		巻第181と同筆か
184		①35.9②41.3③41.2④41.7⑤-⑧41.2⑨41.4⑩40.6⑪41.0⑫-⑱41.4㉑22.0		巻第181と同筆か
185		①32.3②41.2③41.0④-⑱41.1⑲41.5⑳40.0㉑41.3㉒14.8		巻第181と同筆か、墨書書込みあり
186		①34.0②41.0③-⑱40.3⑲40.3/⑳13.5令者㉑25.2无二分㉒36.0清浄与㉓20.2分无別㉔㉕19.7戒安忍㉖14.0羅蜜多/㉗25.9		巻第181と同筆か ⑱と㉑は紙色異なるが継目に文字のの、⑱-⑳は一筆だが料紙細かく継がれる、墨書書込みあり
187		①12.5/②39.7③40.5④40.4⑤40.7⑥-⑱40.4⑲16.3⑳22.6㉑40.3㉒40.8㉓40.5㉔40.2㉕38.5㉖20.1		②以降は巻第181と同筆か 継目の文字のり、文字の部分裁断 少なくない
188		①37.6②40.4③40.6④-⑱40.4㉑33.7		巻第181と同筆か
189		①33.7②40.8③40.6④-⑱40.0⑲34.2		巻第181と同筆か
190		①37.3/②40.7③40.4④539.7⑤40.7⑥49.4⑦40.7⑧37.0⑨27.8⑩40.2⑪31.5⑫40.5⑬38.5⑭-⑱40.5⑲40.0		②以降は巻第181と同筆か
191	翫王院/即眞	①19.7②41.6③41.7④21.6		未表具の断簡(5行「者清淨何以故是命者清淨與内空清…」)あり
192		①1.5/②44.7③48.8④48.5⑤-⑱48.9⑲47.2⑳48.6⑳47.3㉑48.8㉒48.7㉓46.8		部分的な補写と書込み多数
193		①48.0②51.1③48.5④51.4⑤-⑱51.2⑲46.5⑳37.2	一交了	界線のずれ大 部分的な補写多数、墨書書込みあり

巻数	奥書・修理銘	料紙幅(cm)	校訂	特記事項等
194		①47.1②51.3③51.8④51.0⑤52.0⑥51.3⑦⑧51.5⑨49.2/⑩30.6⑪39.0⑫2.0⑬43.0⑭⑮43.5⑯43.0⑰43.2⑱22.2/⑲31.7⑳20.7㉑8.3	一交丁	墨書書込みあり
195		①46.7②17.8/③2行3.8/④32.5⑤⑦50.8⑧51.2⑨50.7⑩48.8⑪51.2⑫⑬51.4⑭48.0⑮⑰51.7⑱43.8⑲4.6/㉑41.2		③の3行は補筒か、③と㉑とは別筆、墨書書込みあり
196		①48.4②50.3③49.8④50.3⑤⑧50.8⑨46.8/⑩48.9⑪47.0/⑫47.8⑬32.0⑭48.8⑮48.5⑯48.7⑰44.5	一交丁	⑨と⑩は同筆、⑪と⑫は異筆、錯簡なし ⑯の左端に余白あり、⑮と⑰で錯簡なし
197		①46.3②48.3③④48.8⑤48.5⑥48.9⑦48.4⑧⑨⑩8.6⑪36.5⑫46.2⑬46.4⑭⑮45.5⑯42.2/⑰9.5⑱7.6		⑩は前後と同筆、⑯(5行)は⑰⑱と異筆、錯簡なし、補筒か
198		①46.2②③48.7④48.5⑤49.2⑥48.7⑦21.2⑧9.0⑨18.0⑩32.6/⑪30.2⑫1行2.0⑬43.2⑭40.4⑮1行2.3⑯⑰43.5⑱41.6⑲1.7 1行⑳39.2㉑㉒43.5㉓10.7/㉔44.5㉕22.5	※	①-⑩、⑮⑯は巻第197の⑩と同筆か ⑩と⑪の紙継いで1行重複改装時、文字が折目に重ならないよう行間を詰める ※㉑と㉒の継目の裏打紙に「一交畢」の墨書あり(転用か)
199		①47.0②50.8③50.5④50.3⑤50.8⑥⑧49.2⑨48.2⑩42.5⑪48.0⑫36.5⑬47.6⑭⑮49.2⑯⑰48.6⑱10.0	※	※巻末に□□□(裁断 文字痕あり)、墨書書込みあり
200		①37.7②38.8③8.2/④37.7⑤⑦37.4⑧38.5⑨⑳38.7㉑39.2		墨書書込みあり、木箱(巻第151-第200)つまみ欠失
201	播州/満勝寺常住「聖」/文和二年癸巳八月申奉修理高男寺院主/阿闍梨慶算授小財於六百軸結值遇於/慈尊朝 外題右筆沙門覚海/六十四歳	①33.0②34.6③34.8④35.6⑤29.5/⑥⑦41.1⑧⑨41.4⑩⑪40.8⑫40.6⑬40.4⑭⑰41.0⑱41.2⑲41.4⑳41.0㉑25.8		①-⑤墨界なし 巻第201-第210の平安時代書写は同筆か
202		①20.2②36.0/③32.5④40.9⑤41.0⑥40.6⑦⑧40.5⑨⑩40.7⑪⑫40.8⑬40.8⑭41.0⑮40.8⑯40.6⑰17.8		
203		①38.0②8.7③30.3④41.1⑤41.2⑥41.1⑦37.3⑧39.0⑨40.8⑩41.0⑪⑫40.6⑬41.0⑭40.8⑮38.0⑯1.9(1行のみ)⑰40.8⑱41.0⑲40.9⑳41.0㉑39.3㉒12.1		
204	弘化参丙午載季穠中旬六日/菅宗栄美写之	①③31.2④42.2		
205		①38.0②41.2③41.0④41.4⑤41.5⑥41.5⑦⑧41.4⑨41.5⑩41.2⑪⑫41.4⑬41.4⑭40.8⑮⑯40.8⑰18.0⑱⑳41.0㉑35.5		②と③の継目、改装時に調整のため少し裁断
206		①40.0②41.0③41.4④41.7⑤41.5⑥41.4⑦41.0⑧41.9⑨41.4⑩⑪41.5⑫41.5⑬41.0⑭41.3⑮38.4⑯3.2⑰40.8⑱40.5⑲22.3⑳41.0㉑31.2		
207		①38.4②41.5③④41.3⑤41.8⑥41.4⑦41.8⑧⑨41.0⑩⑪41.3⑫41.5⑬⑭41.2⑮⑯41.5⑰41.0⑱37.1⑲15.6		欄外に欠行の書込み2行あり 欠失の一部、江戸の補写
208		①39.2②41.5③41.4④41.6⑤⑥41.4⑦⑧41.2⑨⑩⑪⑫41.3⑬41.5⑭41.0⑮⑯41.2⑰41.5⑱33.2		欠失の一部、江戸の補写
209		①38.0②41.0③41.3④⑤41.7⑥41.5⑦41.7⑧41.4⑨41.8⑩41.6⑪41.5⑫41.3⑬18.5⑭15.6⑮41.1⑯41.0⑰⑱41.5㉑34.3		欠失の一部、江戸の補写
210	播州賀東郡満勝寺「聖」安禅坊祐善/文明元年十月廿日買 生年四十四歳也	①36.8②③40.9④38.3⑤41.2⑥⑦40.9⑧14.5/⑨32.0㉑28.1		④の改行余白に「万勝寺」の書込 ⑩と㉑は同筆だが、界高異なる ⑯最終行「無断故有」とすべきを断を新と誤写
211		①38.2②41.2③41.4④41.0⑤40.8⑥40.6⑦⑧40.3⑨40.6⑩⑪41.0⑫40.5⑬⑭41.0⑮41.0⑯41.3⑰12.5		巻第211-第220の平安時代書写は同筆か 巻第201と同筆か
212		①38.0②41.0③41.3④41.5⑤⑦41.0⑧41.5⑨41.0⑩⑪41.2⑫⑬41.1⑭24.1⑮41.5⑯41.0⑰37.0		⑯と⑰で錯簡なし
213		①38.3②41.3③41.5④41.6⑤40.8⑥⑦41.1⑧41.5⑨41.0⑩14.5		
214		①37.5②41.3③41.7④41.4⑤⑦41.0⑧40.8⑨40.0⑩19.1		
215		①37.5②④41.4⑤41.1⑥⑦41.4⑧41.2⑨⑩41.4⑪⑫41.5⑬41.1⑭⑮41.5⑯41.3⑰41.6⑱36.3		
216		①39.5②41.2③④41.5⑤⑦41.2⑧⑨41.4⑩⑪41.2⑫⑬41.0⑭⑮41.0⑯⑰41.2⑱27.5		
217		①39.3②41.5③41.6④41.7⑤41.5⑥⑧41.3⑨40.5⑩25.1		
218		①38.6②40.3③41.1④41.3⑤41.4⑥41.2⑦⑧41.0⑨⑩41.2⑪41.5⑫⑬41.0⑭40.8⑮18.5		
219		①32.0②41.0③④41.1⑤41.0⑥40.7⑦⑧41.0⑨39.6⑩⑪41.0⑫⑬40.8⑭41.0⑮40.7⑯⑰40.2/㉑25.7		②と③の継目で文字が隠れる ⑤と⑥の継目で文字切れる
220		①30.8②41.2③41.5④41.5⑤41.0⑥41.5⑦⑧41.3⑨40.5⑩⑪41.0⑫40.8⑬40.5⑭40.2⑮⑯39.5⑰40.2⑱39.2⑲16.0		
221		①50.0②52.0③49.5④55.0/⑤⑦⑧52.0⑨22.5		
222		①49.5(②52.4③52.5④52.7⑤52.7⑥54.0⑦52.0⑧51.6⑨52.8⑩⑪52.5⑫46.8		①一部(2.2センチ)江戸補写
223		①44.1②④54.7⑤67.2⑥47.0⑦46.8⑧46.2⑨47.2⑩47.5⑪47.8⑫47.6⑬⑭46.8⑮⑯26.7		
224		②42.2		尾題の書写なし

巻数	奥書・修理銘	料紙幅(cm)	校訂	特記事項等
225		①43.8②47.5③47.3④45.1⑤46.6⑥47.2⑦⑧47.5⑨40.4		
226		①50.0②51.8③51.9④⑤52.0⑥⑦⑧51.5⑨⑩47.2		
227		①37.1②④39.3⑤39.0⑥38.0⑦41.0⑧39.5⑨⑩39.0⑪25.5⑫5.1⑬12.5⑭39.2⑮38.2⑯19.8⑰39.2⑱39.4⑲39.0⑳38.5/㉑10.6		⑮と⑰は同筆で⑱(3行)とは異筆
228		①41.1②51.7③51.9④50.8⑤⑥52.0⑦41.7⑧51.3⑨6.5		巻第226と同筆カ ⑮と⑱の紙継ぎは不自然だが錯簡なし
229	嘉永二歳次己酉閏四月念四日/沙門貫泰謹啓	②42.2		⑤から手が変わる
230		①49.7②51.4③51.0④51.4⑤51.5⑥⑦51.0⑧48.2⑨2.2⑩50.6⑪3.8		途中で2回手が変わる(⑩の途中で手が変わる)
231		①53.5/②34.5③④54.6⑤⑥46.1⑦45.9⑧12.5		
232		①39.6②24.0/③25.7④45.8⑤46.3⑥⑦46.2⑧45.8⑨⑩46.8⑪46.5⑫46.3⑬46.3⑭46.5⑮46.0⑯46.2⑰30.8		
233		/④33.7⑤⑦46.3⑧⑩46.5⑪46.1⑫46.8⑬47.0⑭⑮46.5⑯27.2		端巻を利用した補修あり。 ⑨-⑩継目の裏打ちに第536巻の一部を再利用 「之性此平等性即四聖諦所有真如廣説乃」 ⑩-⑪の補修部裏打ちに第536巻の一部を再利用 「菩薩摩訶薩行深般若波羅蜜多時。為欲隨覺此四聖諦平等性故行深般若波羅蜜多。若能隨覺此四聖諦平等性時。名真隨覺一切聖諦。速證無上正等菩提。具壽善復現白佛言。云何菩薩摩訶薩行深般若波羅蜜多時為欲隨覺此四聖諦平等性故。行深般若」 ⑪-⑫継目の裏打ちに第536巻の一部を再利用 「苦集滅道諦無苦集滅道智名四聖諦平等」
234		①42.2②③46.5④47.0⑤46.3⑥⑦46.5⑧⑨46.2⑩⑪46.5⑫⑬46.3⑭⑮46.1⑯10.5/⑰18.3		①-⑩一筆、ただし⑤の初めの6行は異筆、錯簡なし ⑱は⑩までと異筆、⑱の1行目の文字の右端の一部は⑩との継目による(補写)、錯簡なし
235		②42.0		尾題なし
236		①44.5②47.0③47.2④47.0⑤47.2⑥⑦47.3⑧47.7⑨⑩47.3⑪47.0⑫27.0		
237		/③23.5④⑦46.8⑧⑩46.7⑪⑫47.0⑬46.6⑭46.8⑮47.0⑯⑰46.5⑱39.4⑲5.8⑳43.0㉑45.8㉒16.0		
238		①42.5②43.5③48.8④46.5⑤46.6⑥⑦46.4⑧46.5⑨⑩46.0⑪⑬46.5⑭⑮46.0⑯45.8⑰12.5		
239		①4.7/②38.0/③④46.9⑤⑥47.2⑦⑧47.5⑨47.7⑩⑪47.5⑫47.3⑬47.5⑭47.2⑮15.2		補修紙あり(宝珠が3つ並ぶ朱印)
240		①8.7/②40.4③49.2④2.5⑤51.5⑥50.8⑦53.3⑧⑨53.5⑩⑪54.0⑫54.2⑬40.8		③と④で糊離れ、錯簡なし(③と④で「清」重複)
241	明德五年甲丑三月廿日 覺舜	①40.2②43.1③43.3④42.4⑤⑥⑦43.0⑧24.8		
242		①15.6②③43.0④29.7/⑤9.4⑥⑦46.3⑧⑨46.6⑩42.5		④と⑤で錯簡なし
243	応永四年丁丑七月廿八日 覺舜書之	①28.0/②17.0③④45.8⑤25.6⑥19.6⑦45.9⑧⑨45.8⑩⑪48.4⑫44.4/⑬43.3⑭43.2⑮31.7		表紙に巻第244の題箋を誤って貼る ①と②で錯簡なし ②-⑦は一筆カ
244		①3.7/②50.0③④55.6⑤⑥55.6⑦⑧55.9⑨⑩56.0⑪32.8		表紙に巻第243の題箋を誤って貼る
245	于時弘化式乙巳年/八月四日/天台沙門即因印(朱文方印)/書写之	②42.3		
246		①44.2②21.2③44.0④43.7⑤43.5⑥7.1/⑦36.4⑧47.7⑨18.3⑩6.3⑪26.8⑫47.6⑬34.6⑭11.6⑮23.2⑯17.2⑰47.6⑱⑲47.5⑳4.9		⑥と⑦で錯簡なし ⑨-⑪は一筆 ②と③の紙継ぎに文字のる
247		①6.5②17.0/③17.4④2.9⑤47.3⑥⑦47.2⑧⑨47.3⑩42.6⑪8.9		③と④で糊離れ
248		①27.7/②18.4③48.1④47.6⑤48.4⑥48.5⑦48.4⑧48.0⑨⑩49.0⑪48.2⑫48.9⑬48.5⑭47.5⑮48.0⑯25.7		
249		①44.4②③46.7④46.5⑤46.8⑥⑦47.0⑧47.2⑨⑩47.2⑪⑫47.0⑬46.7⑭29.0		
250		①35.0②37.5③39.2④39.0⑤⑥39.3⑦39.0⑧⑨39.2⑩39.5⑪⑫39.2⑬38.8		独特の字体
251	□	①29.3②2.3③④43.2⑤⑥42.7⑦43.3⑧0.8⑨41.0⑩0.8⑪41.1⑫43.0⑬0.7⑭40.0⑮43.1⑯42.8⑰43.0⑱43.2⑲43.1⑳43.3㉑43.1㉒43.6㉓0.7㉔5.6㉕42.5		木箱(巻第251-第300)の蓋の棧欠失本文中に異筆で「満勝寺常住」
252	満勝寺常住	①46.5②48.1③48.4④48.6⑤⑥48.5⑦⑧48.2⑨36.7		
253		①46.3②48.4③④48.2⑤8.3		
254		①46.8②④48.3⑤48.0⑥48.3⑦⑧48.7⑨⑩48.3⑪48.8⑫45.2⑬3.3⑭⑮48.3⑯48.0⑰47.6		
255		①27.0②42.7③35.6/④46.2⑤⑥47.6⑦47.6⑧47.8⑨46.2⑩47.0⑪40.9		
256		①46.2②46.5③47.8④⑤47.5⑥47.6⑦⑧47.8⑨47.2⑩47.7⑪47.0⑫46.5⑬47.5⑭43.5		

巻数	奥書・修理銘	料紙幅(cm)	校訂	特記事項等
257	明徳伍年四月十一日 右筆助書祐玄/ 播州万勝寺 常住	①30.3②42.8③42.7④-⑧43.0⑨40.6⑩2.0<1行>⑪ ⑫43.0⑬43.4⑭43.0⑮⑯43.2⑰-⑱43.0⑳29.0		
258	為法界衆生平等利益 市カフミ口祐/勸 進日富/一交了	①50.9②54.2③54.1④54.6⑤54.5⑥-⑨54.1⑩54.5/ ⑪51.8⑫-⑬52.3⑭4.2	一交了	⑯は「一交了」のみ
259		①31.3/②38.8③-⑥39.0⑦38.7⑧38.3⑨38.9⑩39.2 ⑪-⑬38.7⑭38.8⑮39.0⑯-⑲39.1⑳39.2㉑39.0㉒ 38.6㉓34.3		
260	播州万勝寺常住	①45.9②48.4③48.6④48.5⑤-⑧48.5⑨48.2⑩48.5 ⑪37.7		
261		①53.8②③55.6④55.5⑤⑥54.5⑦55.0⑧55.5⑨-⑬ 55.2⑭55.5⑮31.8		
262		①37.1/②8.8③45.9④-⑥46.2⑦44.1		①と②は異筆、界高異なり、錯簡はなし
263		①51.6②55.4③④55.6⑤55.4⑥-⑧55.5⑨31.6		
264		①51.6②③55.1④-⑥55.2⑦17.5		
265		①43.5②-④48.3⑤48.7⑥⑦48.4⑧47.8⑨-⑫48.3⑬ 15.4		紙背にマークあり
266		①51.5②55.0③55.5④55.0⑤54.8⑥⑦54.8⑧⑨55.3 ⑩54.8⑪-⑬55.3⑭45.9		
267		①51.5②55.6③④56.0⑤⑥55.6⑦55.9⑧-⑩55.6⑪ 40.4		
268		①54.0②③55.6④55.8⑤55.5⑥-⑧55.8⑨53.2⑩ 2.0(1行)⑪⑫55.5⑬52.5⑭2.0(1行)⑮55.3⑯55.5⑰ 55.2⑱11.6		
269		①51.2②55.3③55.7④55.5⑤55.2⑥-⑧55.5⑨⑩ 55.2⑪55.5⑫⑬55.2⑭55.5⑮55.2⑯31.8		
270		①45.0②③48.5④48.1⑤48.7⑥48.4⑦48.6⑧⑨48.2 ⑩-⑫48.6⑬48.0⑭17.2		
271		①37.2②38.5③39.0④39.1⑤38.8⑥38.3⑦39.2⑧ 38.8⑨25.5⑩9.8⑪-⑫38.6⑬⑭39.0⑮38.3⑯2.8		墨書書込みあり
272		①43.7②47.1③-⑤47.4⑥47.4⑦-⑩47.1⑪45.3		
273		①42.3/②13.5③54.2④54.0⑤⑥53.8⑦-⑨53.8⑩- ⑬54.0⑭53.5⑮50.5		①と②で錯簡なし、墨書書込みあり
274		①52.0②53.5③53.6④53.5⑤⑥53.6⑦53.9⑧-⑩ 53.6⑪8.5		巻第273②以降と同筆、墨書書込み
275		①35.2②54.0③54.1④54.3⑤54.0⑥54.5⑦54.1⑧ 53.6⑨-⑫54.1⑬53.8⑭54.0⑮24.0		墨書書込み
276	弘化三丙午年霜月中旬/比金山如意寺/ 圓性謹書之 役	①32.7②17.2③-⑤41.6 ㊟41.8		
277		①19.1②42.5/③27.6④44.4⑤⑥44.8⑦44.7⑧-⑪ 44.5⑫46.0⑬10.6/⑭19.1/⑮16.0⑯46.5⑰46.3⑱ 44.9/⑲43.2⑳20.1/㉑47.3㉒47.1㉓10.0		③-⑬と⑮-⑱は同筆、⑲-㉓とは異筆 ⑲と⑳は同筆、①② とは異筆 行間に欠行の書き入れ多し(⑬と⑭の紙継で⑬の料 紙の左端に1行小さく書き足す) ②と③、③と④と⑤、⑩と⑪で 錯簡なし 綴目でない紙背にマークあり 墨書書込みあり、文章中の文字に墨書で丸囲み
278	応永四丁丑七月十八日 覚舜	①18.7H20.0/②23.9H19.1③44.1④44.5⑤44.0⑥ 44.1⑦45.0⑧44.6⑨43.0/⑩42.8H20.2⑪42.6⑫43.3 ⑬43.0⑭43.1⑮42.7⑯43.0⑰40.5		補書の①は②の右端の1行を糊代として継ぐ(捲れて②の文字 が一部見える)、①と②で欠字ないよう①の一捲の文字数を調 整する ②-⑨一筆 ⑩-⑰は一筆で①とは異筆 墨書書込みあり
279		①42.4②42.7③10.8/④52.0⑤53.2⑥53.0⑦53.2⑧- ⑫53.2⑬52.5		墨書書込みあり、巻末近く「智」「浄」を選択的に修正?
280		①50.3②52.5③52.3④52.6⑤52.0⑥52.6⑦52.3⑧ 34.1⑨53.5⑩53.2⑪54.5⑫54.0⑬54.7⑭48.5		巻第279と同筆、墨書書込みあり
281	龍朔元年 月廿日於玉花寺玉花殿三藏/ 法師女裝奉 詔訳/文明元年買/勸進聖 安禪坊祐善	①45.8②51.1③50.8④51.0⑤32.6⑥17.0⑦-⑨51.5⑩ 50.7⑪-⑬51.5⑭51.3⑮⑯51.5⑰-⑲51.2⑳33.6		零巻カ、玉花寺は長安の北方の玉華宮内にある玉華寺、「龍 朔元年…詔訳」は本文と同筆 「文明元年買…」は追筆
282		①44.2②48.5③④48.7⑤47.8⑥48.5⑦48.0⑧48.7⑨ ⑩48.9/⑪45.0⑫41.2⑬43.6⑭-⑯45.0⑰⑱43.0⑲ 44.2⑳44.9㉑36.5		⑩と⑪は同筆
283		①42.0②45.5③45.3④-⑥45.5/⑦⑧43.0⑨42.8⑩ 12.8/⑪35.5⑫44.2/⑬16.2/⑭12.6⑮14.1⑯44.3⑰ 33.6/⑱13.4㉒42.8㉓41.0/㉔39.5㉕㉖45.0㉗39.8		⑨と⑩、⑬と⑭、⑮と⑯と⑰、㉑と㉒、㉓と㉔で錯簡なし
284		①40.8②2.1③47.1④47.4⑤⑥47.8⑦47.7⑧47.5⑨ ⑩48.0⑪47.6⑫42.5⑬4.5⑭47.5⑮47.9⑯47.6⑰48.0 ⑱47.6⑲47.5⑳-㉑47.8㉒45.1		①と②と③で錯簡なし
285		①42.5②46.8③47.0④46.8⑤47.0⑥46.7⑦46.5⑧ 46.8⑨47.0⑩⑪47.1⑫46.8⑬47.3⑭⑮46.8⑯46.6⑰ 46.8		
286	此手次代ハ藤田伊左衛門と仕候	①28.5②39.5③19.4/④49.0⑤49.2⑥⑦49.5⑧-⑩ 49.0⑪-⑬49.4⑭⑮49.2⑯35.1		巻第286から第290までの平安時代書写は一筆(途中で別筆、 墨界なしの箇所あり) ③の最後と④の最初で「是」重複
287		①44.8②49.0③48.8④48.6⑤-⑧48.6⑨⑩48.4⑪ 48.5⑫48.7⑬48.9⑭48.5⑮40.3		
288		①41.0②45.0③④44.8⑤-⑦45.2⑧45.5⑨45.3⑩ 45.5/⑪-⑬47.1⑭32.2		⑩以前と⑪以降は同筆
289	維時嘉永三庚戌年二月/永野弘孝欽書 写之	①15.0 ②40.0		首題・尾題に「律」と記載あり

巻数	奥書・修理銘	料紙幅(cm)	校訂	特記事項等
290		①41.0②2.0(1行)③47.6④48.0⑤48.2⑥-⑩48.0⑪47.5⑫-⑬48.0⑭16.5		
291		①52.0②53.9③53.8④⑤54.4⑥54.2⑦54.0⑧54.5⑨54.8⑩-⑬54.4⑭52.1		
292		①44.0②-⑩48.2⑪-⑬48.6⑭-⑯45.1⑰42.2		
293		①46.5②-⑥52.0⑦-⑩55.2⑪54.6⑫54.2⑬-⑯54.6⑰23.6		
294		①39.2②41.6③41.8 ④41.8⑤16.0		
295		①45.6②47.1③④48.1⑤⑥47.7⑦⑧47.8⑨47.5⑩-⑬47.6⑭⑮47.8⑯47.5⑰47.8⑱18.3		
296		①45.1②③48.8④48.5⑤-⑩48.8⑪48.4⑫-⑯48.9⑰⑱48.6⑲10.6		
297		①21.6/②25.0③④51.0⑤52.8⑥53.2⑦-⑩52.9⑪-⑯52.5⑰30.8		①と②で錯簡なし
298		①45.0②46.6③46.7④46.3⑤46.9⑥47.0⑦42.5⑧-⑩46.9⑪38.8⑫39.5⑬-⑯46.9⑰46.7⑱46.2⑲45.0		①の最終行の文字左端が②で隠れる 錯簡なし
299		①51.1②54.5③54.8④50.9⑤50.3⑥⑦50.5⑧49.0⑨50.9⑩60.6⑪⑫50.5⑬⑭50.2⑮17.5		③と④で錯簡なし
300		①32.2②37.8③37.3④37.8⑤⑥38.0⑦⑧37.8⑨38.3⑩38.5⑪37.8⑫38.2⑬⑭38.1⑮39.2⑯38.1⑰40.3⑱40.0⑲39.6⑳26.5		
301		①37.1②13.5/③34.4④45.2⑤44.8⑥45.3⑦-⑯45.3⑰45.7⑱45.6⑲3.5		①と②は同筆、②と③の紙継で「四」が重複、補簡 木箱(巻第301-第350)蓋の上の棧欠失
302		①46.1②48.7③48.5④48.9⑤-⑩48.7-49.0⑪21.9		朱点書込みあり
303		①51.3②-⑤55.3⑥-⑨55.6⑩⑪55.0⑫54.0⑬⑭55.2⑮-⑰55.4⑱51.3		朱点・朱字書込みあり
304	正因房/書之	②41.8		尾題に「調」と記載あり
305		①44.5②48.3③48.8④⑤49.0⑥⑦49.5⑧48.9⑨-⑯49.2⑰28.2		①と②は継目で一行程の余白あり、同筆、錯簡なし、朱点・朱字書込みあり
306		①25.9②38.2③37.0/④2.7⑤-⑯49.4⑰50.8		③と④(1行)は異筆、「浄」が③と④で重複、補簡 ④と⑤は同筆で「法」の文字が④と⑤で重複
307		①-④40.0/⑤36.0⑥38.3⑦38.7⑧-⑩38.8⑪37.3⑫36.1/⑬41.0⑭44.0⑮45.2⑯45.7⑰-⑱45.5⑲45.3⑳44.3㉑45.3㉒32.6		⑫と⑬は異筆、⑬と⑭は同筆 墨界なしの箇所あり
308		①35.0②37.3③21.1④48.7⑤-⑩49.0⑪47.7⑫-⑯48.0⑰44.5		墨書書込みあり
309		①35.7②38.1③38.2④⑤⑥38.4⑦38.7⑧-⑩38.5⑪⑫36.2/⑬40.1⑭-⑰49.4⑱49.1⑲49.5⑳11.0		⑫までと⑬以降は異筆、⑫と⑬で錯簡なし、⑫以前と巻第308は同筆か
310	天養二年歳次乙丑三月十三日播万国三木郡常隆寺書/勸進聖人 高男寺住僧聖寂 結縁僧 賢光/為現世安穩後生善處奉助成耳	①49.2②52.7③53.2④53.4⑤51.9/⑥48.8⑦⑧48.0⑨48.4⑩⑪48.3⑫48.1⑬48.3⑭48.0⑮48.1⑯⑰48.4⑱22.0		⑤と⑥で錯簡なし
311	維時嘉永元年戊申十二月/永野弘孝欽書写之	②41.5		首題・尾題に「陽」と記載あり
312		①50.5②55.3③44.0/④49.0⑤48.9⑥-⑯49.0⑰49.4⑱49.0⑲47.4⑳7.1		③に朱点あり ③と④では界線のずれ、錯簡なし
313		①48.7②47.2③47.5④-⑯47.5⑰3.7		
314	書写主 東本町 大屋久兵衛/西本町 紙屋莊兵衛/施主 紙屋莊兵衛	②41.9		首題・尾題に「陽」と記載あり
315	書写主 東本町 大屋利兵衛/施主 西本町 紙屋莊兵衛	①33.0②③33.4⑤-⑯42.0⑰20.0		首題・尾題に「陽」と記載あり
316	書写主 西本町 紙屋莊兵衛/施主 同人	①33.6②41.9③41.9④51.6⑤41.8⑦41.3/⑧47.⑨17.8⑲29.7⑳19.9		⑧⑨は古色の料紙 ⑧と⑨の継目に文字の ⑧の界高は前後と異なる 底本の柱題あり 首題・尾題に「陽」と記載あり
317	書写生 西本町 紙屋莊兵衛/施主 同家	①33.0②42.1④41.5⑤22.3		底本の柱題あり 表紙の題箋に「陽巻」 首題・尾題に「陽」と記載あり
318	書写生 西本町 紙屋莊兵衛/施主 同人	②-④41.3⑤41.7		底本の柱題あり 首題・尾題に「陽」と記載あり
319	書写生 西本町 紙屋莊兵衛/施主 同家	②41.8 ①41.3⑧40.4⑨34.4⑲1.4		⑧-⑲は古色の料紙 首題・尾題に「陽」と記載あり
320	為女船木氏尊靈二人同三良尊靈成仏	①51.5②③55.5④49.0⑤47.2⑥46.9⑦47.1⑧⑨47.0⑩47.4⑪-⑬47.1⑭46.5⑮47.1⑯46.9⑰46.8⑱⑲46.8⑳45.3㉑11.3		
321		①42.0②47.0③47.3④47.1⑤-⑰47.3⑱8.2		
322		①41.7②44.6③45.5④-⑥45.3⑦45.0⑧-⑩45.4⑪-⑬45.0⑰-⑲45.2⑳21.0		
323		①11.3②38.0③21.6④30.5⑤38.2⑥37.6⑦38.0⑧38.3⑨39.0⑩39.1⑪39.2⑫35.6/⑬40.0⑭45.7⑮45.6⑯45.7⑰44.1⑱44.2⑲44.4⑳㉑43.7㉒44.3㉓27.3		①-⑫と⑬以降とは異筆、⑫と⑬で錯簡なし ⑩が⑪の文字を一部隠す
324		①26.5②28.9③29.0④37.3⑤28.4/⑥50.8⑦52.5⑧52.3⑨52.5⑩-⑯52.3⑰43.2		①-⑤と⑥以降とは異筆、⑤と⑥で錯簡なし
325		①45.2②47.3③47.4④47.2⑤47.3⑥47.2⑦47.5⑧-⑩47.5⑪42.0⑫42.8⑬-⑱43.0⑲40.5⑳210.3		⑫以前と⑬以降は同筆、⑫と⑬で錯簡なし
326		①40.4②44.0③④44.5⑤-⑱44.3⑲40.5		
327		①43.7②47.3③-⑱47.3⑱51.7⑲51.3⑲⑲51.5⑲51.0⑲4.2		⑬と⑭は同筆

巻数	奥書・修理銘	料紙幅(cm)	校訂	特記事項等
328		①43.0②-⑦44.9⑧-⑩47.7⑪⑫45.2⑬⑭19.2		
329		①40.8②44.4③44.0④44.4⑤44.2⑥44.3⑦-⑩44.2⑪44.3⑫⑬28.6		
330		①40.3②44.0③④44.2⑤-⑩44.0⑪45.2⑫-⑭45.4⑮15.6		
331		①44.6②49.9③50.2④50.1⑤44.5⑥-⑩44.6⑪⑫6.5		⑧に斜めの切断痕あり
332	天養二年七月廿三日三木郡常隆寺書畢 /結縁助成僧 賢光	①54.0②56.0③56.2④55.6⑤56.5/⑥45.8⑦46.2⑧⑨46.0⑩46.7⑪-⑬46.5⑭46.2⑮45.8⑯46.3⑰⑱45.8⑲2.8		⑤と⑥の紙継ぎに文字の、⑬と⑭も同様 天高・地高は⑤以前と⑥以降で異なる(界高は同じ) ⑰は奥書のみ 当初より複数規格で一筆か
333		①53.3②③④-⑩55.7⑪⑫38.2		
334		①52.8②55.5③-⑩55.7⑪⑫47.5		
335	応永七年庚辰七月七日 構了 覚舜	①28.1②43.2③42.7④43.3 ⑤43.2⑥⑦40.7		
336	応永七庚辰年六月二日 覚舜	①37.5②41.1③41.2④⑤41.5⑥-⑩41.0⑪40.8⑫37.2/⑬31.8⑭⑮19.5⑯⑰24.5		⑬と⑯で錯簡なし
337		①47.5②48.5③52.6④44.5⑤44.3⑥-⑩44.8⑪⑫19.8		
338	弘化丁未初四 八月上旬 義清 書干 朽木醫王/閣茅舎/為 蓮堂和尚(※裏表紙裏)	①33.3②③42.2 ④42.2⑤26.1		
339		①52.0②55.5③-⑩55.3-55.7⑪⑫42.4		
340		①33.0②42.6/③6.6④41.1⑤41.4⑥-⑩41.6⑪⑫39.6⑬26.4		②と③、⑩と⑬で錯簡なし
341		①2.1②4.7③9.8④5.1⑤7.3⑥15.4⑦47.3⑧1.6⑨46.2⑩47.1⑪47.5⑫⑬47.2⑭47.5⑮1.7⑯45.0⑰⑱47.4⑲47.2⑳47.4/㉑故世尊無10.6/㉒故世尊若1.8㉓亦不3.8/㉔云何10.1		①-⑦寸断されているが一筆、錯簡なし ⑧と⑨は同筆、⑩と⑪は同筆、⑫と⑬は異筆、⑭-⑳で錯簡なし、㉑と㉒との継目に㉓の裁断された文字痕があり
342		①41.5②49.5③50.0④17.7⑤34.3⑥-⑩50.2⑪-⑬47.2⑭6.7⑮44.2⑯1行1.7⑰⑱47.2⑲1行2.3		
343		①44.7②46.6H19.1-19.9③46.6H20.0④47.28H19.8⑤⑥47.8H19.9⑦47.2⑧-⑩48.0⑪47.0⑫48.0⑬47.0⑭47.7⑮47.2⑯47.8⑰28.5		①と②は同筆だが界高異なる、②の界高2度変化
344		①45.4②47.7③47.5④1.3⑤45.3⑥⑦47.4⑧-⑩47.7⑪⑫11.5		④が短いのは改装時に横幅調整のために行間を詰めたためか 紙片(反転文字)の付着あり 朱字あり
345		①44.2/②31.6③38.8④38.9⑤39.4⑥-⑩39.5⑪⑫38.0⑬38.6⑭37.5⑮33.6⑯38.8⑰37.7⑱38.8⑲30.4⑳37.5㉑38.3㉒19.5		③と④の継目の行間詰まる
346		①42.5②45.0③46.2④47.1⑤47.7⑥47.2⑦-⑩47.7⑪-⑬47.9⑭46.2		
347		①44.0/②46.2③46.0④-⑥46.3⑦-⑩46.4⑪46.7⑫-⑭46.2⑮32.3		①と②は異筆、錯簡なし
348		①41.5②2.4③22.3④22.8/⑤4行6.9⑥4行7.1⑦9行16.4⑧22.0⑨13.5⑩31.8⑪46.2⑫46.5⑬46.7⑭-⑯46.2⑰47.0⑱46.3⑲19.8		④と⑤で錯簡なし、料紙の規格は同じだが現状の紙色異なる 朱字で欠行、欠字の行間書入あり
349		①42.4/②3.8③46.6④46.4⑤46.6⑥-⑩46.5⑪⑫46.7⑬6.6		①は太字、①と②での錯簡なし
350		①33.9②42.8③20.0/④46.6⑤47.7⑥46.3⑦46.8⑧-⑩47.0⑪-⑬46.6⑭47.3⑮33.3		③と④は同筆だが現状の紙色異なる
351		①44.9②47.8③48.0④47.8⑤47.8⑥-⑩48.0⑪47.0⑫46.8⑬46.6⑭47.1		
352		①47.8②50.0③④50.1⑤-⑩50.2⑪47.6⑫-⑬50.0⑭49.2⑮48.1⑯38.2		
353		①46.8②-④50.0⑤⑥49.6⑦49.4⑧⑨19.0		
354		①39.8②51.5③-⑥51.8/⑦-⑩49.4⑪⑫39.2		
355		①43.5②50.1③-⑥50.3⑦1.0(1行)⑧48.1⑨⑩50.2⑪48.3⑫49.3⑬49.3⑭48.5/⑮⑯47.5⑰46.6⑱40.9		⑤-⑦は一筆
356		①45.6②49.2③49.0④49.3⑤-⑧49.5/⑨47.5⑩⑪⑫47.7⑬⑭48.0/⑮47.4⑯47.8⑰14.4		
357		①47.0②48.4③-⑥49.2⑦49.5⑧-⑩49.6⑨-⑫49.4/⑬-⑯47.2⑰⑱47.5⑲47.3⑳47.7㉑47.2㉒40.7		
358		①47.0②49.0③49.5④49.6⑤50.0⑥-⑧49.4⑨49.7⑩-⑫50.1⑬-⑯49.5/⑰⑱48.6⑲⑳48.3㉑12.3		
359		①47.0②49.3③49.5④-⑥49.1⑦47.9⑧-⑩48.0⑪47.8⑫35.1		
360		①46.3②48.6③48.0④-⑥48.8⑦⑧48.0⑨48.4⑩48.9⑪⑫48.5⑬⑭48.8⑮48.0⑯47.2⑰47.6⑱47.4⑲20.0		
361		①51.0②54.0③54.4④-⑥54.7⑦-⑩54.8⑪⑫54.2⑬54.5⑭54.2⑮40.1		
362		①51.0②③54.7④55.0⑤-⑧54.8⑨⑩54.5⑪⑫24.1		
363		①51.1②54.6③④54.8⑤-⑦54.6⑧-⑩54.4⑪54.0⑫54.2⑬54.0⑭⑮54.5⑯46.5		
364		①50.9②-④54.4⑤-⑧54.3⑨50.9		
365		①51.7②54.0③54.2④⑤54.2⑥54.5⑦54.2⑧-⑩54.5⑪⑫54.0⑬53.1		

巻数	奥書・修理銘	料紙幅(cm)	校訂	特記事項等
366		①48.9②③54.2④54.3⑤54.0⑥⑦54.2⑧14.0		
367		①50.8②54.0③54.3④54.4⑤⑥54.2⑦⑧54.4⑨⑩⑪54.3⑫⑬54.2⑭⑮54.0⑯19.9		
368		①50.5②54.0③54.3④54.0⑤54.3⑥54.5⑦54.2⑧54.5⑨54.1⑩54.8⑪54.5⑫⑬54.3⑭54.1⑮1行1.7		
369		①52.0②56.2③④56.6⑤56.5⑥⑦56.9⑧⑨56.7⑩⑪56.6⑫⑬38.5		
370		①53.0②56.5③④56.8⑤⑥56.3⑦⑧56.7⑨⑩⑪56.3⑫⑬8.2		巻第361-370はセット
371		①41.0②43.8③④43.6⑤⑥43.8⑦⑧43.4⑨⑩⑪44.1⑫⑬43.9⑭⑮44.2⑯⑰33.2		
372		①42.0②44.0③43.9④43.7⑤⑥43.7⑦⑧43.9⑨⑩43.6⑪⑫43.4⑬⑭43.4⑮⑯43.7⑰43.2	一交了	
373	天保十四季 癸卯六月 永野弘孝謹書写之	①33.2②③42.4 ㊦㊧41.4㊨27.0		首題・問題・尾題に「結」と記載あり
374		①44.0②③45.2④⑤44.9⑥⑦44.9⑧⑨43.5⑩42.5		
375	天保第十五龍次甲辰年五月/永野弘孝謹書写之	①33.6②41.8③④40.5 ㊦41.3㊧41.0㊨18.2		首題に「結」と記載あり
376		①42.1②③44.4④44.7⑤⑥44.5⑦⑧44.7⑨⑩42.5	一交了	
377		①33.5②44.5③44.8④44.5⑤44.7⑥44.4⑦⑧44.3⑨44.5⑩⑪44.2⑫44.0⑬44.3⑭44.5⑮44.2⑯26.7		
378		①43.5②45.1③45.5④45.1⑤45.2⑥⑦45.1⑧⑨44.5⑩⑪45.1⑫⑬37.9		
379		①42.5②45.6③45.8④46.2⑤⑥46.0⑦⑧5.7	一交了	
380		①43.0②③44.8④44.8⑤⑥45.0⑦43.2	一交了	
381		①51.0②54.6③55.0④54.6⑤⑥55.0⑦55.3⑧54.7⑨55.0⑩54.8⑪55.1⑫55.0⑬52.5⑭19.3		⑮と⑯は同筆か、継目で界高ずれ
382		①43.5②53.5③48.5④3.6⑤29.5⑥22.5⑦⑧53.5⑨7.0⑩13.8⑪30.0⑫53.4⑬39.5⑭12.9⑮53.3⑯53.0⑰53.5⑱26.4⑲26.2⑳53.1㉑53.3㉒51.1㉓51.5㉔29.0		
383		①49.3②51.2③51.1④51.3⑤⑥51.4⑦51.1⑧46.5⑨51.7⑩⑪51.3⑫51.0⑬9.6		
384		①453②472③47.5④47.1⑤⑥47.3⑦7.6		
385		①43.5②45.6③45.7④⑤45.8⑥⑦45.6⑧⑨35.6		
386		①51.2②54.0③④54.5⑤⑥54.7⑦⑧⑨54.2⑩⑪54.6⑫49.7		⑬の巻末に擦り消しの痕跡か
387		①45.0②49.2③48.8④48.6⑤48.9⑥48.5⑦49.2⑧48.8⑨49.2⑩48.9⑪49.0⑫48.8⑬49.0⑭48.8⑮⑯49.0⑰46.1		
388		①44.0/②3.6/③42.3④⑤44.8⑥44.7⑦45.3⑧44.6⑨45.0⑩44.8⑪46.3⑫46.4⑬46.2⑭45.9/⑮2.1/⑯44.7⑰46.2⑱45.8⑲46.0⑳46.3㉑44.7		⑲前後で錯簡なし
389	応永二年乙亥閏七月八日 覚舜	①35.0②42.3③④42.6⑤42.3⑥42.6⑦⑧42.5⑨⑩⑪42.6⑫⑬42.8⑭⑮42.7⑯44.2⑰42.4⑱42.6⑲42.1⑳42.5㉑20.3㉒20.0㉓6.6		
390		①50.0②52.1③53.3④53.7⑤53.9⑥⑦53.8⑧⑨54.2⑩52.6⑪54.0⑫⑬54.2⑭53.6⑮47.8⑯22.2		
391		①46.6②51.8③④51.6⑤51.0⑥51.3⑦⑧⑨50.8⑩⑪51.1⑫49.0⑬15.0		
392		①45.9②③50.2④50.5⑤49.5⑥50.1⑦49.8⑧48.5⑨48.0⑩49.6⑪⑫50.0⑬49.8⑭49.5⑮49.7⑯35.8		行間を詰めるところあり
393		①47.0②51.0③51.6④51.0⑤⑥51.2⑦⑧47.2⑨45.0⑩47.2⑪26.0		⑭までと⑮以降は同筆、錯簡なし
394		①46.0②49.2③49.5④⑤49.3⑥49.9⑦49.6⑧⑨50.2⑩49.9⑪30.5		
395		①50.8②53.6③53.7④53.5⑤54.0⑥53.5⑦53.8⑧⑨53.6⑩53.8⑪32.1		⑫と⑬は同筆、錯簡なし
396		①44.5②51.2③50.3④⑤49.7⑥⑦49.2⑧⑨50.2⑩45.6⑪⑫45.3⑬45.5⑭⑮45.6⑯43.6/⑰23.5		⑳と㉑で錯簡なし
397		①45.8②50.0③50.8④50.1⑤51.0⑥51.2⑦⑧51.2⑨51.5⑩⑪51.2⑫⑬48.3⑭⑮13.0		
398		①49.7②53.2③53.0④54.1⑤53.6⑥⑦54.0⑧46.6		
399		①43.5②47.6③47.8④47.5⑤⑥47.8⑦48.0⑧47.5⑨⑩53.5⑪53.5⑫53.6⑬53.1⑭5.7		巻末に「口巻第三百口口」(反転 天地逆)あり
400		①42.8②③44.8④⑤44.8⑥⑦44.5⑧47.2⑨42.3		
401		①1.0②42.0③④41.6/⑤27.4⑥19.3⑦⑧45.4⑨43.8⑩46.7⑪⑫45.4⑬18.2		⑭と⑮で錯簡なし 木箱(巻第401-第450)蓋のつまみ欠失
402		①36.7②38.7③38.9④23.5⑤38.5⑥⑦39.0⑧44.8⑨⑩44.5⑪⑫45.0⑬40.4⑭20.9		⑮以前と⑯以降は異筆
403		①37.5②39.2③④39.3⑤⑥39.5⑦39.0⑧⑨39.5⑩37.5⑪⑫39.2⑬18.1/⑭⑮44.6⑯43.2⑰43.2		⑱以前と⑲以降は異筆、途中別筆あり ⑲以降はやや後か墨界なしの箇所あり
404		①15.6②39.0③17.8④39.3⑤23.6⑥⑦47.4⑧46.8⑨47.5⑩⑪47.5⑫⑬47.3⑭⑮47.2⑯3.1		⑰以前と⑱以降は異筆
405		①44.2②46.7③46.4④⑤46.7⑥44.5⑦⑧43.3⑨⑩47.5⑪41.5⑫47.3⑬41.5		

巻数	奥書・修理銘	料紙幅(cm)	校訂	特記事項等
406		①45.8②42.8③42.8④-⑦42.9⑧3.6		
407		①43.5②45.1③45.5④-⑦45.3⑧44.4⑨43.2⑩-⑫43.5⑬15.9		
408		①22.0②19.8③44.3④-⑦45.3⑧-⑩34.5⑪-⑬44.2⑭-⑯44.0⑰11.2		文字の書き足し多し
409		①40.6②44.0③43.8④43.4⑤44.2⑥43.7⑦44.0⑧43.8⑨⑩44.2⑪43.3⑫45.6⑬45.2⑭44.8⑮44.5⑯45.6⑰45.4⑱9.2		
410		①43.0②46.6③46.8④46.2⑤45.8⑥-⑧46.5⑨-⑪47.0⑫46.6⑬-⑯47.0⑰9.6		
411		①51.0②53.0③53.2④53.0⑤-⑧53.2⑨52.3⑩49.1		
412		①43.6②46.7③47.1④47.3⑤-⑧47.2⑨45.3⑩11.8		継目でない④の紙背にマークの花押あり
413		①43.8②47.7③47.9④-⑦47.5⑧-⑩47.8⑪47.1⑫46.5⑬9.4		継目でない紙背にマークあり
414		①42.8②45.1③46.6④46.2⑤47.0⑥47.6⑦-⑩47.3⑪12.1		継目でない紙背にマークあり
415		①44.8②47.8③48.5④54.8⑤48.0⑥1.7⑦46.0⑧48.0⑨48.2⑩47.5⑪-⑬48.0⑭48.3⑮48.5⑯47.8		継目でない紙背にマークあり
416		①51.1②55.2③56.2④-⑦56.4⑧54.0⑨53.5⑩53.8⑪53.9⑫54.0⑬54.3⑭53.2⑮52.2⑯13.2		⑮と⑯で錯簡なし、⑮の行間に1行補写
417	嘉永元戌申年九月吉祥日/甌玉院二而/教純写之	②41.7		
418		①49.0②52.2③52.3④52.7⑤51.6/⑥54.0⑦⑧53.3⑨55.3⑩55.5⑪47.3/⑫51.3/⑬55.5⑭54.4⑮55.4⑯50.0		
419		①49.3②52.6③53.0④53.2⑤-⑦52.7⑧52.4⑨52.8⑩-⑬53.0⑭44.0		
420		①52.5②53.5③54.8④54.6⑤⑥54.3⑦52.8⑧53.7⑨54.0⑩-⑫53.8⑬⑭53.5⑮53.3⑯50.0		
421		①48.6②55.2③55.0④55.2⑤54.5⑥55.5⑦55.4⑧54.5⑨56.2⑩55.2⑪55.5⑫54.8⑬55.7⑭54.8⑮55.0⑯34.5⑰19.5⑱13.3/⑲15.8		⑯までと⑲は異筆、錯簡なし、紙背にマークの判(口)に大あり
422		①51.0②55.0③54.6④54.1⑤-⑦55.0⑧-⑩55.5⑪⑫51.0⑬51.3⑭50.8⑮50.7⑯38.7		継目でない⑪の紙背にマークの判(口)に大あり、墨書書込みあり
423		①49.6②55.4③54.7④⑤55.0⑥-⑧54.5⑨43.7		継目でない⑮の紙背にマークの判(口)に大あり
424		①49.1②52.6③52.8④53.0⑤53.7⑥53.0⑦⑧53.3⑨-⑫52.5⑬53.0⑭52.9⑮53.5⑯47.1		継目でない紙背にマークの判あり
425		①46.4②50.7③-⑤51.0⑥⑦51.0⑧-⑩51.5⑪50.8⑫51.5⑬50.8⑭45.6		継目でない紙背にマークの判(口)に大あり
426		①48.5②52.8③53.0④53.1⑤-⑧53.0⑨42.5		巻末に巻第426の一節(尾題より2行目「離非…待以」を墨書する、本文に錯簡なし、紙背にマークの判(口)に大あり
427		①50.5②54.8③54.9④54.5⑤⑥54.6⑦54.3⑧54.5⑨54.0⑩54.9⑪54.2⑫54.4⑬⑭54.0⑮54.4⑯50.0		継目でない⑮の紙背にマークの判(口)に大あり
428		①45.3/②5.3③54.2④53.5⑤54.0⑥54.4⑦54.5⑧2.0(1行)⑨54.1⑩53.8⑪54.2⑫53.6⑬53.2⑭53.4⑮53.6⑯53.0⑰7.0		①と②で錯簡なし ⑧前後は同筆 継目でない紙背にマークの判(口)に大あり、裏打ちに墨書「六十七と書込みあり
429		①48.5②52.0③④52.6⑤52.8⑥-⑧52.6⑨52.3⑩-⑫52.5⑬51.0/⑭35.9		⑮と⑯の界高など異なるが同筆、錯簡なし
430		①48.2②52.5/③54.4④54.6⑤-⑧54.3⑨53.8⑩54.8⑪54.5⑫54.7⑬54.4/⑭52.3⑮52.2⑯27.2		⑮と⑯の継目に余白の行あるが錯簡なし、同筆 継目でない紙背にマークの判(口)に大あり
431		①44.8②-⑤47.1/⑥45.2⑦-⑨45.3⑩45.9⑪45.4⑫45.8⑬45.5⑭45.6⑮45.1⑯45.5⑰45.8⑱45.2⑲4.3		⑤⑥と⑨⑩は同筆
432		①46.0②47.0③47.2④-⑦47.1/⑧49.2⑨25.2		⑮と⑯は異筆だが錯簡なし
433		①44.1②-④47.2⑤-⑦47.0⑧5.5		
434		①40.3②42.2③-⑥42.5⑦42.2⑧42.6⑨42.5⑩42.8⑪-⑬42.5⑭36.0		
435		①42.0②43.8③44.1④44.3⑤44.2⑥44.6⑦44.1⑧44.3⑨44.1⑩-⑫44.2⑬13.1		
436		①43.5②-⑤45.6⑥⑦47.5⑧47.2⑨-⑫47.5⑬47.2⑭47.5⑮41.1		⑤と⑥は同筆
437		①43.3②-⑤45.5/⑥43.5⑦44.3⑧44.1⑨-⑫44.0⑬43.5⑭43.5⑮43.2⑯44.1⑰29.2		⑤と⑥は同筆
438		①41.5②45.3③45.0④45.2⑤45.5/⑥42.8⑦43.0⑧-⑩43.8⑪-⑫43.2⑬6.2		⑤と⑥は同筆
439		①42.1②-④45.5⑤-⑧45.7⑨45.5⑩-⑫45.4⑬⑭45.0⑮45.4⑯⑰45.2⑱45.1⑲19.5		
440		①48.2②-④51.0⑤49.0⑥49.2/⑦39.0⑧44.5⑨45.0⑩45.1⑪45.6⑫38.8		⑪と⑫と⑬は同筆、錯簡なし
441		①45.5②49.1③④49.5⑤47.1⑥47.5⑦47.8⑧47.6⑨47.5⑩⑪47.8⑫-⑭47.5⑮47.3⑯35.1		
442		①47.5②48.8③48.6④49.1⑤47.7⑥47.4⑦48.1⑧48.0⑨47.8⑩47.6⑪47.3⑫47.9⑬47.4⑭47.7⑮47.3⑯47.5⑰22.2		
443		①47.2②49.1③49.3④⑤49.5⑥49.3⑦⑧49.5⑨49.4⑩49.2⑪-⑬49.0⑭27.8		
444		①17.8②25.9/③44.0④48.1⑤48.5⑥⑦49.0⑧49.1⑨-⑫49.1⑬47.0⑭28.8		②と③で錯簡なし

巻数	奥書・修理銘	料紙幅(cm)	校訂	特記事項等
445		①47.0②-④49.0⑤⑥48.9⑦⑧49.1⑨⑩48.8⑪49.2⑫49.0⑬49.2⑭49.3⑮41.8/⑯21.1		⑮と⑯で錯簡なし
446		①43.5②47.0③47.2④47.5⑤-⑦49.3⑧-⑩49.1⑪-⑬49.4⑭47.0⑮35.6		④と⑤は同筆
447		①45.8②47.6③47.9④47.6⑤35.4⑥13.0⑦48.5⑧48.3⑨48.5⑩-⑬48.0⑭47.8⑮34.8		
448		①45.4②48.7③④49.0⑤48.6⑥⑦49.1⑧-⑩49.0⑪48.8⑫-⑬49.0⑭47.0⑮29.0		
449		①47.1②49.2③49.0④⑤49.5⑥⑦49.1⑧49.4⑨49.2⑩49.5⑪49.0⑫49.2⑬-⑮49.0⑯49.3⑰34.0		
450		①44.0②-④47.6⑤41.6⑥⑦4.9⑧⑨49.9⑩49.8⑪48.5⑫49.8/⑬47.0⑭2.5⑮49.0⑯46.7⑰20.0		⑥と⑦は同筆
451		①50.2②52.9③④52.7⑤⑥53.0⑦52.7⑧-⑩53.0⑪-⑬52.7⑭54.0⑮13.8		
452		①50.5②-④53.2⑤22.5		
453		①47.5②-④53.2⑤49.0⑦3.6(2行)⑧-⑩53.2⑪52.2⑫16.7		⑭と⑮は同筆 紙背にマークの判(口に大)あり
454		①53.6②54.4③-⑤54.2/⑥⑦42.2⑧19.5		⑥の途中で手が変わる
455		①50.5②53.3③-⑤53.5⑥53.2⑦41.5⑧54.8⑨51.0		⑬と⑭は同筆だが 紙色 規格異なる。
456		①43.0②46.0③44.8④-⑥45.8⑦45.4		
457		①45.8②46.9③-⑤47.3⑥47.3		
458		①52.0②54.8③-⑤55.0⑥54.7⑦54.8⑧55.6⑨54.3⑩-⑫54.7⑬54.0⑭51.8⑮47.8		⑩と⑪の継目で2字欠落、異筆か ⑬と⑭は同筆、巻第455と同一人か
459		①44.8②-④45.4⑤28.5		
460		①44.2②46.9③-⑤47.3⑥44.2⑦45.3⑧⑨45.2⑩31.5		⑩と⑪、⑪と⑫の継目に文字のる
461		①48.5②-④52.4⑤48.2⑥53.2⑦53.7⑧52.8⑨52.1⑩-⑫53.8⑬52.4⑭25.2		
462		①48.5②-④52.5⑤⑥-⑧52.7⑨39.5		
463		①49.4②53.4③1.6(1行)④50.5⑤53.2⑥52.8⑦47.5⑧49.0⑨-⑫48.8⑬46.7		
464		①47.7②52.9③53.1④52.8⑤52.7/⑥-⑧48.6⑨48.3⑩-⑫48.5⑬46.3⑭8.9		
465		①48.6②52.2③52.5④52.1⑤52.5⑥-⑧52.3⑨52.7⑩52.5/⑪-⑬54.5⑭54.9⑮54.5⑯54.9⑰51.3⑱12.4		⑧、⑩の紙背にマークの判(口に大)あり
466		①51.4②55.3③55.5/④52.6⑤52.8⑥52.3⑦52.7⑧52.4⑨52.8⑩52.9⑪-⑬52.4⑭53.1/⑮44.0/⑯53.8/⑰54.4		③の紙背にマークの判(口に大)あり
467		①50.5②52.8③52.5④52.7⑤52.5/⑥54.9⑦⑧55.1⑨55.6⑩55.0⑪55.6⑫-⑬55.7⑭54.8⑮30.5		⑦の紙背にマークの判(口に大)あり
468		①51.5②53.2③-⑤53.0⑥53.2⑦⑧-⑩53.0⑪-⑬53.4⑭54.0⑮34.8		紙背にマークの判(口に大)あり
469		①50.2②54.0③54.2④-⑥54.2⑦54.4⑧⑨-⑫54.0⑬⑭53.5⑮40.2		書き込み多数
470		①51.0②54.4③54.9④55.8⑤56.0⑥52.0⑦-⑩55.5⑪55.8⑫-⑬55.6⑭32.5		紙背にマークの判(口に大)あり
471		①43.2②③46.4④47.1⑤-⑧47.4⑨-⑫47.1⑬46.8⑭6.3		
472		①51.5②53.0③2.0④⑤55.3⑥-⑧55.6⑨14.3		
473		①51.0②53.2③1.8④⑤55.6⑥55.2⑦-⑩55.5⑪27.1		
474	天養二年歳次乙丑二月三日三木郡常隆寺書畢/勸進聖人■■■■住僧暹寂 結縁衆僧賢光/過去悲母■■■■所生三人尊靈往生極楽/頓證菩提耳 仍結縁助成意趣以如斯	①51.0②55.8③55.5④-⑥56.2⑦54.6		裏打紙巻頭に「天養□□□□□□□□」の墨書書き込みあり 江戸の裏打紙、江戸の書込み力(文字の左半分、表紙厚紙で隠れる)
475	天養二年歳次乙丑二月中旬常隆寺書写畢/勸進聖人高男寺住僧暹寂助成衆女高橋氏/為現世安穩後生菩提助成耳 筆師僧賢光	①51.4②55.3③55.1④55.6⑤-⑧55.9⑨55.7⑩-⑫55.4⑬39.6		
476		①43.4②47.5③20.8④47.0⑤47.1⑥46.9⑦47.1⑧47.8⑨45.0⑩46.7⑪44.8⑫44.9⑬⑭42.5⑮48.2⑯48.4⑰48.2⑱47.2		
477	如意寺	①51.5②45.8③45.2/④47.4(19.6)⑤54.4(20.4)⑥56.7(20.6)⑦54.3⑧49.3(以下20.5)⑨49.5⑩49.7⑪49.6⑫49.7⑬49.5⑭49.4⑮49.0⑯49.0⑰30.6		①と②、③と④、④と⑤とで界高異なる ⑭途中から筆かわり太文字に ⑮と⑯は料紙・界線の仕様は同じだが異筆、⑰は「如意寺」と同筆、墨色同じ
478		①52.0②-④55.6⑤-⑦55.8⑧28.9		奥書断簡続く可能性大。繊維や裁断面を確認必要
479	天養二年歳次乙丑 三月十三日播万国三木郡常隆寺書畢/勸進聖人■■住僧暹寂結縁共僧蓮西/為智恵辯才利根利現世安穩後生菩提書耳	①50.2②③53.8④54.2⑤53.6⑥53.2⑦53.5⑧53.6⑨53.1⑩53.7⑪40.5⑫9.2⑬53.5⑭53.6⑮53.8⑯53.6⑰26.1		⑩-⑬は同筆

巻数	奥書・修理銘	料紙幅(cm)	校訂	特記事項等	
480	天養二年歳次乙丑三月十日幡万国三木郡常隆寺/書写已畢 勸進聖人高男寺住僧/聖寂結縁助成衆松木成重女文屋氏/数多所生現世安穩後生善處故/殊致精誠之誠助成之状 執筆賢光	①50.0(20.3,2行目20.1)②53.8③53.5④53.7⑤53.9⑥53.0⑦53.5⑧53.9⑨53.2⑩53.1⑪53.5⑫53.6⑬53.8⑭51.6			①の首題は「大般若…四百」まで書かれた紙片を貼り「八十」は補写する。紙片にものとの界線、補簡 錯簡なし
481		①50.0②54.2③54.5④-⑤54.5⑥⑦54.5⑧⑨54.0⑩⑪54.0⑫11.5		③ ⑥ ⑩の紙背にマークの判(口に大)あり	
482		①2.3/②49.9③54.0④54.4⑤54.8⑥55.2⑦-⑩55.0⑪-⑬54.8⑭50.0⑮4.1⑯⑰55.0⑱31.5		⑩の紙背にマークの判(口に大)あり	
483		①51.0②53.9③53.3④54.1⑤-⑦54.3⑧54.0⑨-⑬54.6⑭-⑯54.2⑰15.5		②の紙背にマークの判(口に大)あり	
484		①47.0②52.2③52.4④⑤52.7⑥52.0⑦52.5⑧52.0⑨52.8⑩52.4⑪51.3⑫51.5/⑬54.3/⑭52.8⑮25.0⑯53.0⑰44.2		紙背にマークの判(口に大)あり	
485		①51.3②52.8③-⑤55.1⑥54.3⑦52.1⑧2.0⑨52.7⑩1.8⑪54.5⑫54.0⑬54.5⑭53.7⑮54.7⑯52.6⑰53.3⑱52.2⑲36.6		紙背にマークの判(口に大)あり	
486		①52.0②53.8③54.4④54.1⑤⑥53.2⑦53.0⑧53.3⑨53.0⑩52.5⑪53.1⑫54.0⑬53.8⑭53.0⑮54.6⑯43.8		紙背にマークの判(口に大)あり	
487		①51.5②③53.6④53.8⑤54.1⑥52.6⑦52.5⑧53.0⑨52.3⑩⑪52.8⑫51.0⑬52.4⑭-⑯53.5⑰45.1		⑦の紙背にマークの判(口に大)あり	
488		①51.0②-⑥53.0⑦53.5⑧⑨53.2⑩53.5⑪⑫53.2⑬⑭53.0⑮52.7⑯49.2⑰52.8⑱38.5		①の紙背にマークの判(口に大)あり	
489		①29.7/②21.7③52.9④51.8⑤51.1⑥51.0⑦52.8⑧52.5⑨-⑪54.3⑫50.5⑬⑭54.0⑮51.5⑯54.3⑰54.0⑱15.0		⑩の紙背にマークの判(口に大)あり	
490		①51.8②-⑦53.9⑧53.5⑨50.0⑩53.9⑪50.0⑫2.4⑬50.0⑭⑮54.0⑯54.3⑰52.0		⑩の紙背にマークの判(口に大)あり	
491		①49.5②52.7③53.0④-⑥52.7⑦-⑩53.0⑪⑫53.3⑬⑭53.0⑮49.7⑯53.0⑰54.2⑱19.2			
492	弘化丁末初四檢菊月下句拜書	②42.5			
493		①45.8②-④48.6⑤-⑩48.9⑪49.2⑫48.8⑬49.2⑭48.8⑮46.2⑯40.2			
494		①45.5②-④49.8⑤-⑦49.0⑧48.5⑨48.8⑩-⑫49.0⑬48.8⑭48.5⑮48.6⑯48.0⑰7.2		末尾に書き落とした2行分を追記? ⑭に「ハ」の付紙あり	
495		①43.0②-④46.5⑤-⑯47.8⑰31.2		⑯と⑰の継目で⑯に1行分程度の余白あり、錯簡なし ⑰裏に「三社…」の墨書あり	
496		①42.5②46.0③46.2④46.4⑤46.2⑥-⑧46.5⑨48.9⑩46.8⑪-⑬46.5⑭44.5⑮42.5⑯9.8			
497		①43.2②46.0③-⑤46.5⑥46.7⑦46.2⑧⑨46.7⑩⑪⑫46.5⑬⑭42.8⑮17.6/⑯3.4/⑰27.3		⑯と⑰の継目で⑯に1行分程度の余白あり、錯簡なし	
498		①44.2②-④47.8⑤46.0⑥44.9⑦40.6			
499		①44.5②-④47.9⑤46.9⑥46.5⑦46.7⑧46.3⑨46.0⑩16.2		⑩と⑯の継目で1行分程度の余白あり、錯簡なし ⑯裏打に「妙辯」の名あり	
500		①44.4②47.9③48.2④-⑥48.0⑦45.6⑧7.1			
501		①41.2②42.0③17.1④34.7⑤34.5⑥37.8⑦37.5/⑧55.5⑨55.7⑩⑪55.4⑫55.6⑬⑭55.4⑮⑯55.5⑰40.9			
502		①50.0②-④53.1⑤54.0⑥⑦54.5⑧54.3⑨54.0⑩-⑬55.0⑭54.5⑮⑯54.6⑰50.7			
503		①43.8②9.2/③53.6④55.4⑤55.6⑥55.8⑦55.4⑧55.7⑨55.3⑩-⑬55.5⑭55.4			
504		①52.8②55.0③-⑤55.6⑥⑦55.3⑧⑨55.2⑩55.5⑪54.7⑫55.0⑬14.6			
505		①42.1②35.0/③34.2④39.5⑤38.6⑥38.4⑦39.5⑧38.2⑨36.5/⑩5.3⑪49.5⑫49.0⑬48.2⑭49.6⑮48.9⑯⑰49.0⑱49.1⑲48.9⑳48.7㉑47.5		墨界なしの箇所あり	
506		①10.8/②24.6③37.8④39.2⑤38.7⑥39.2⑦39.5⑧⑨39.3⑩25.0/⑪23.8⑫45.9⑬46.3⑭⑮45.6⑯46.2⑰-⑱46.0⑲45.2⑳46.0㉑45.7㉒40.5		⑩以前と⑪以降は異筆、錯簡なし、墨界なしの箇所あり 改装時に行間を多く詰める	
507		①31.2/②21.8③④55.0⑤-⑧55.3⑨54.6⑩-⑰55.5⑱52.8		墨界なしの箇所あり	
508		①46.0②47.7③47.8④49.5⑤49.3⑥⑦49.6⑧50.1⑨⑩49.8⑪⑫49.2⑬-⑯49.0⑰48.8⑱39.5⑲14.6			
509		①52.0②54.8③55.0④55.2⑤-⑦55.4⑧55.2⑨55.5⑩⑪55.5⑫16.7⑬55.2⑭55.6⑮-⑯55.6⑰50.4/⑱14.0		もとの⑱は巻第122に継がれる 墨界なしの箇所あり ⑱の前後で錯簡なし	
510		①46.0/②49.6③50.0④-⑥50.2⑦49.8⑧⑨50.0⑩⑪49.8⑫⑬49.7⑭50.0⑮49.6⑯⑰39.5⑱23.5			
511		①28.3②46.8③47.2④47.0⑤47.2⑥47.5⑦-⑨47.1⑩47.3⑪47.6⑫⑬47.5⑭47.0⑮-⑰47.5⑱21.1			
512	兵庫熊内 小兵衛	②41.9			
513		①46.0②48.0/③48.2④47.8⑤48.2⑥48.0⑦48.3⑧-⑩48.2⑪-⑬48.0⑭3.5		①②と③以降とは異筆	
514		①44.5②-④47.8⑤48.2⑦-⑩48.0⑰45.5⑱37.8			
515		①45.8②-④47.6⑤48.0⑩48.2⑰-⑱48.0⑲40.2/⑳5.7㉑47.9㉒48.6㉓47.2㉔48.2㉕36.0		⑱の途中で手が変わる ⑱から界線なし	

巻数	奥書・修理銘	料紙幅(cm)	校訂	特記事項等
516		①42.0②-④47.6⑤⑥47.9⑦36.0/⑧46.2⑨28.1⑩16.5⑪1.8⑫⑬48.1⑭42.1/⑮21.8⑯29.8⑰⑱42.5⑲42.3⑳40.3㉑42.3㉒42.5㉓17.2		⑧-⑩は一筆、錯簡なし ⑦と⑧、⑭と⑮で錯簡なし、文字写りあり、墨書書込みあり
517	沙弥(阿妙)前書写也	①/②46.2/③46.4④46.4⑤47.2⑥-⑩47.4⑪47.1⑫47.6⑬⑭47.7⑰⑱47.5⑲46.8⑳11.8		①と③以降は同筆で阿妙カ ②(最終行は余白)は③の右端の1行(文字の一部が見える)を糊代として継がれる ⑱と⑳は同筆だが界線ずれる
518		①45.5②47.6③48.2④47.8⑤48.2⑥47.8⑦⑧48.0⑨-⑫48.2⑬-⑮48.0⑯34.8⑰⑱45.4⑲2.9		⑮と⑯は同筆だが界線ずれる
519		①53.5②-④55.5⑤⑥55.8⑦55.6⑧55.8⑨-⑪55.6⑫55.9⑬54.8⑭56.0⑮-⑰55.5⑱4.4		
520		①50.0②55.1③-⑦55.4⑧-⑩55.3⑪⑫55.0⑬55.5⑭55.2⑮27.3		
521		①51.8②47.5③④53.3⑤-⑦53.0⑧52.4⑨⑩53.0⑪52.6⑫52.3⑬52.4⑭1.2⑮48.3⑯1.7⑰52.3⑱53.3⑲42.5		⑧と⑨、⑫と⑬で糊はなれ
522		①51.5②53.7③45.0④-⑦53.0⑧52.8⑨52.6⑩52.9⑪53.2⑫52.6⑬52.9⑭53.0⑮52.5⑯⑰52.8⑱26.2		①②と③以降は同筆カ、錯簡なし
523		①10.5②29.6③15.8④55.2⑤55.4⑥-⑧55.2/⑩⑪46.1⑫43.3⑬2.9⑭-⑯46.3⑰⑱46.5⑲43.0⑳46.0㉑24.6		⑨と⑩は同筆 ②と③は糊離れ
524		①28.0②39.8/③35.2④1.6⑤18.8⑥30.1/⑦52.1⑧-⑩51.9⑪51.8⑫51.5⑬⑭51.8⑮52.3⑯52.5⑰46.5⑱30.2		
525		①51.7②55.3③55.5④⑤55.7⑥54.6⑦55.0/⑧45.4⑨46.0⑩45.7⑪46.5⑫46.6⑬⑭46.2⑮46.4⑯46.0⑰46.5⑱46.3⑲46.0⑳19.3		
526		①51.3②55.2③41.6④52.4⑤52.4⑥52.4⑦51.5⑧51.8⑨53.3⑩⑪52.0⑫⑬52.2⑭52.3⑮-⑰52.5⑱39.0		
527		①38.2②51.4③51.0④51.5⑤1.5⑥50.2⑦51.4⑧51.5⑨51.9⑩52.2⑪52.3⑫51.6⑬52.1⑭51.9⑮-⑰52.5⑱10.8		
528		①47.5②51.8③④47.2⑤47.5⑥46.8⑦47.9⑧⑨47.3⑩47.0⑪47.8⑫47.5⑬45.1⑭31.0⑮⑯47.6⑰43.5⑱51.6		
529		①52.3/②34.3③46.6④46.9⑤47.5⑥46.3⑦46.7⑧46.6⑨46.8⑩47.3⑪47.0⑫46.6⑬計測困難⑭47.0⑮47.2⑯計測困難⑰47.5⑱38.5		
530		①43.5/②54.8③④55.0/⑤46.1⑥⑦46.5⑧44.8⑨11.0⑩⑪47.3⑫⑬47.7⑭47.5⑮47.3⑯47.7⑰47.3⑱46.8		⑧と⑨と⑩は同筆、墨界なしの箇所あり
531		①51.3②53.4③④53.0⑤⑥53.6⑦53.4⑧53.0⑨53.2⑩53.3⑪⑫53.5⑬-⑮53.2⑰42.5		⑮と⑰は同筆
532		①51.1②53.7③1.5④51.5⑤53.6⑥45.0⑦45.5⑧-⑩45.3⑪45.4⑫45.6⑬45.0⑭45.3⑮45.3⑯45.5⑰45.1⑱45.3⑲45.5⑳15.2		
533		①44.5②54.1③54.1④54.2⑤54.2⑥54.0⑦-⑨54.6⑩54.5⑪54.2⑫45.5⑬45.8⑭45.6⑮45.1⑯45.5⑰45.6		首題の1行は江戸時代の補写で裏打紙に写す ⑩と⑫は同筆、錯簡なし
534		①41.5②45.2③45.0④⑤45.7⑥44.8⑦45.7⑧45.5⑨45.8⑩⑪45.6⑫⑬47.5⑭47.3⑮46.7⑯47.3⑰46.7⑱47.3⑲30.7		
535		①47.3②③51.3④50.5⑤50.4⑥51.0⑦44.6⑧-⑩44.5⑪⑫44.7⑬44.4⑭44.0⑮44.6⑯⑰44.5⑱12.4		⑥と⑦で錯簡なし、同筆
536		①41.5②45.4③45.2④45.5⑤45.3⑥-⑧45.5⑨⑩45.7⑪⑫45.5⑬44.7⑭44.6⑮44.2/⑯39.3⑰22.1		⑮から紙色が変わる 墨界なしの箇所あり 一部が第233巻の補修紙に使用された可能性高い
537		①50.2②53.6③④53.9⑤54.2⑥54.4⑦54.5⑧-⑩54.3⑪53.3⑫-⑭54.2⑮54.0⑯53.2⑰53.8⑱49.1		
538		①33.5②15.9/③26.5④49.3⑤45.0⑥2.1⑦42.3⑧45.3⑨-⑰45.3		墨界なしの箇所あり
539		①43.4②47.2③④47.1⑤⑥47.4⑦⑧47.8⑨46.8⑩46.5/⑪⑫49.8⑬50.2⑭49.8⑮49.0⑯49.0⑰49.2⑱35.0		
540		①45.4②47.4③47.8④⑤47.4⑥⑦47.0⑧47.2/⑨45.0⑩43.6⑪45.3⑫44.7⑬45.0⑭44.8⑮-⑰45.0⑱44.6		③④で墨の濃淡、線の太さの変化で×、※の形をデザインする
541		①46.1②49.1③-⑥49.3⑦-⑩49.0⑪48.8⑫54.7⑬-⑮54.8⑯54.5⑰⑱44.0⑲19.8		
542		①51.7②55.6③55.5④53.8⑤53.5⑥55.8⑦55.5⑧50.8⑨-⑰50.8⑱-⑲50.5⑳⑳50.6㉑20.0㉒20.3		⑱のみ異筆
543		①52.0②55.7③-⑧55.9⑨-⑰55.6⑱-⑲55.5⑳55.0⑳43.9		
544		①53.1②55.3③55.7④-⑦55.6⑧⑨55.8⑩46.7⑪47.0⑫-⑬46.6⑭46.5⑮5.4		
545		①21.4/②33.0③④55.5⑤55.7⑥55.5⑦55.2⑧-⑩55.7⑪⑫55.3⑰9.5		墨界なしの箇所あり
546		①48.2②53.1③53.5④⑤53.0⑥-⑩53.5⑪46.6⑫⑬46.4⑭46.2⑮46.7⑰⑱46.7⑲39.5		
547	弘化第二暦乙巳仲夏之候/永野姓弘孝欽書	②42.0		

巻数	奥書・修理銘	料紙幅(cm)	校訂	特記事項等
548		①46.3②50.8③51.0④50.5⑤50.7⑥50.0⑦50.4⑧-⑩50.8⑪-⑬50.5⑭8.1		
549		①48.0②49.5③48.0④48.7⑤48.0⑥47.5/⑦20.9⑧⑨53.5⑩48.4⑪48.6⑫47.8⑬-⑭47.5⑮47.8⑯48.0⑰46.7		⑥と⑦は異筆
550		①43.7②46.8③-⑦47.0⑧47.2⑨-⑫47.0⑬⑭47.3⑮⑰-⑲47.0⑳3.9		
551		①45.3②47.8③-⑯48.0⑰22.0		
552		①46.1②-④47.8⑤46.0⑥1.6⑦-⑨48.0⑩-⑯45.2⑰43.3⑱22.7		
553		①42.8②46.2③45.8④47.8⑤48.0⑥48.2⑦-⑨48.0⑩48.5⑪47.5⑫48.2⑬48.0⑭47.8⑮⑯48.0⑰46.0		
554		②42.0		巻末に「光」の墨書書込みあり。「光」は千字文。
555		①45.0②-④48.2⑤46.0⑥-⑩46.3⑪45.0⑫44.0⑬⑭6.7		
556		①41.8②-④45.0⑤⑥-⑩46.2⑪44.6⑫45.5⑬29.5		
557		①41.5②-④45.0⑤21.0		一部欠損部分の補写あり
558		①46.0②-④49.0⑤44.3		
559		①42.0②-④46.0⑤45.8⑥-⑩46.0⑪⑫⑬45.7⑭⑮46.0⑯44.2⑰⑱46.8⑲30.0		
560		①45.0②-④48.2⑤48.5⑥48.2⑦46.5⑧46.2⑨⑩-⑫46.3⑬30.7		
561		①45.6②50.2③-⑤50.4⑥49.5⑦47.5⑧⑨36.5⑩47.8⑪19.7		同じ料紙の中で手がかわる
562		①46.1②-④50.0⑤51.3⑥50.0⑦-⑩49.4⑪38.3		
563		①47.1②51.2③51.5④51.2⑤51.6⑥⑦51.8⑧51.6⑨49.1⑩-⑫49.8⑬49.2⑭49.7⑮42.7		
564		①49.8②③51.9④51.7⑤51.7⑥51.3⑦51.6⑧⑨51.8⑩51.6⑪-⑬50.2⑭46.8⑮7.9		
565		①48.0②-④49.6⑤49.4⑥49.7⑦-⑩50.0⑪⑫49.5⑬48.8⑭49.2⑮⑯47.6⑰11.7		料紙の継目で手がかわる
566		①408②③46.5④⑤47.0⑥46.7⑦47.0⑧⑨46.5⑩46.7⑪-⑬46.5⑭47.0⑮-⑰46.5⑱26.2		一部の漢字の字音を記す
567		①46.0②③49.2④49.8⑤-⑯49.5⑰19.3		
568		①46.2②49.9③-⑤50.2⑥49.0⑦1.1⑧47.5⑨48.8⑩49.2⑪⑫48.5⑬49.6⑭7.6		⑯の途中から行間が狭くなり、墨界がなくなる
569		①47.4②48.0③51.5④51.2⑤51.0⑥51.0⑦50.8⑧50.5⑨51.5⑩⑪51.0⑫49.1⑬49.2⑭49.5⑮49.4⑯49.0⑰49.2⑱45.0⑲16.3		⑧までと⑨以降は異筆、⑰までと⑱以降は異筆、錯簡なし ⑱以降行間が狭くなる
570		①46.0②48.4③-⑥48.9⑦⑧48.5⑨48.8⑩49.5⑪49.9⑫49.7⑬⑭50.0⑮49.7⑯46.0⑰42.8⑱26.5		①-⑦と⑧-⑬と⑭-⑯とは異筆 ⑯と⑰で錯簡なし
571	天保十四年卯/三月/施主/垂水村/弥三郎	①43.8②-④47.5⑤⑥-⑧47.8⑨-⑫47.9⑬48.0⑭47.8⑮47.6⑯26.5		
572		①44.2②-④47.7⑤47.9⑥47.7⑦48.0⑧47.8⑨47.6⑩-⑫47.8⑬⑭47.5⑮28.5		
573		①43.0②46.7③46.9④-⑧47.0⑨47.2⑩⑪47.5⑫47.0⑬47.2⑭⑮47.0⑯-⑲47.3⑳47.0㉑4.6		
574	干時弘化二乙巳年八月八日/書写之/如意寺浄泉院/清範/弘化二乙巳年/八月/清範書写ス之	③40.8④41.9		尾題に「終」と記載あり
575	天保十有四年癸卯冬十有二月吉祥日/永野三二太良弘孝/謹書写之	②42.3		首題・問題に「珍」と記載あり
576		①45.6②③47.0④⑤47.5⑥47.3⑦47.1⑧⑨47.3⑩47.1⑪-⑬48.1⑭⑮48.8⑯24.5		
577		①44.1②47.5③-⑤47.9⑥-⑩47.6⑪-⑯47.8⑰⑱47.5⑲36.2		
578		①54.0②31.3③16.7④⑤47.8⑥48.0⑦46.6⑧45.7⑨2.1⑩48.4⑪48.2⑫-⑭48.1⑮47.8⑯⑰48.2⑱19.6		①-④と⑤以降は一筆
579		①43.6②46.6③46.5④-⑦47.5⑧-⑩44.5⑪45.1⑫45.5⑬-⑯45.2⑰33.5		
580		①48.6③52.2③-⑧53.0⑨53.3⑩51.2⑪53.7⑫⑬52.5⑭51.0⑮52.5⑯43.5		⑩までと⑪以降は紙色が変わるが同筆 紙背にマークの判(口に大)あり
581	弘化三丙午年菊月下旬於清養山法泉寺謹書之/性善房/為 蓮堂和尚佛果僧位	②42.3		
582		①43.6②47.5③-⑦47.8⑧⑨48.0⑩47.6		尾題2ヶ所にあり
583	一交了/久寿二年正月廿五日 和泉州大島郡和田郷下条/釈尊寺住僧嚴尊/依聖人勸進 以写般若徳 願共諸衆生 往生安(案)国	①50.5②54.8③55.6④55.6⑤56.0⑥-⑩55.9⑪54.7⑫54.2⑬52.1⑭2.1⑮54.2⑯48.3	一交了	一筆
584		①44.5②48.5③48.3④⑤48.8⑥48.6⑦-⑨48.9⑩49.2⑪52.5⑫48.1⑬3.0⑭-⑯51.5⑰48.9⑱30.2		⑩と⑪、⑯と⑰で錯簡なし 墨界なしの箇所あり
585	維時天保十五祀甲辰九月 永野弘孝欽書	②41.6		
586		①47.6②-④49.8⑤50.0⑥49.9⑦49.7⑧49.3⑨49.1⑩48.3⑪44.2		墨界なしの箇所あり
587		①47.8②49.3③49.6④49.3⑤49.8⑥-⑨49.6⑩⑮48.5⑯39.4		墨界なしの箇所あり

巻数	奥書・修理銘	料紙幅(cm)	校訂	特記事項等
588		①43.5②-④49.5⑤⑥49.3⑦49.7⑧49.2⑨49.6⑩48.8⑪⑫48.3⑬40.0⑭45.2⑮33.7		墨界なしの箇所あり
589		①46.5②48.1③48.7④48.1⑤48.8⑥48.6⑦48.5⑧48.7⑨48.2⑩48.5⑪51.5⑫⑬51.6⑭51.8⑮48.6⑯19.6		墨界なしの箇所あり
590		①47.1②39.7③8.3④⑤48.6⑥-⑩48.8⑪52.0⑫⑬51.5⑭52.0⑮39.4⑯34.8		墨界なしの箇所あり
591		①54.0②-⑤55.5⑥55.0⑦55.3⑧-⑫55.5⑬54.7⑭2.0		紙継の紙背にマークの判あり
592		①53.6②-④55.5⑤24.0⑥27.0⑦55.0⑧54.2⑨⑩55.2⑪54.5⑫54.8⑬52.2⑭2.1⑮54.9⑯51.0⑰⑱3.6⑲46.5⑳24.9		⑥と⑦とは同筆 ⑩と⑪で錯簡なし 紙継の紙背にマークの判あり
593		①51.3②-④53.5⑤-⑦53.8⑧55.0⑨-⑫53.5⑬53.8⑭54.8⑮55.0⑯54.8⑰25.8		⑨と⑩で錯簡なし 紙継の紙背にマークの花押あり
594		①50.3②-⑥53.2⑦54.8⑧55.0⑨-⑫54.8⑬37.0⑭53.2⑮53.3		前半と後半で手が変わる 紙継の紙背にマークあり
595		①50.8②52.8③-⑤55.5⑥53.2⑦54.4⑧54.9⑨⑩55.1⑪18.2⑫42.2⑬⑭55.0⑮54.3⑯54.5⑰51.0		⑭と⑮は異筆 紙継の紙背にマークあり
596		①50.6②52.8③-⑤53.2⑥55.5⑦55.2⑧54.3⑨⑩⑪54.5		紙継の紙背にマークあり
597		①5.6/②50.0③-⑦55.5⑧53.0⑨-⑫53.5⑬35.5⑭22.5/⑮53.8⑯31.0		紙継で墨界のずれあり ⑬と⑭、⑯と⑰は異筆で錯簡なし ⑱から⑳までの紙継の紙背にマークの判あり、巻第76の補修紙に使用される
598		①53.0②-⑦55.5⑧⑨55.3⑩55.8⑪⑫55.1⑬⑭55.7⑮56.0⑯54.8⑰22.5		墨書書込みあり
599	弘化四丁未年霜月十一日畢/為 権大僧都法印永範大和尚菩提/如意寺浄泉院内・実静房書之 印 印(朱文方印)	②41.7		
600		①54.5②55.9③56.3④56.0⑤52.8⑥53.8⑦53.5⑧53.0⑨53.4⑩-⑫53.2⑬54.5⑭25.8		
601	天養二年 歳次/乙丑 三月七日 常隆寺畢 勸進聖人高男寺住僧暹寂結縁助成衆 松木貞宗女口「氏カ」所生延命息災延命 現喜安穩後生善處而已執筆僧覺光	①40.3(縦25.5)②45.8(縦25.3)③12.0(縦25.2)		断簡3紙を接合したもの 江戸時代の改修時に切断したものを繋ぎ合わせたか？ 天養二年の奥書は、筆跡・料紙・切断面の観察から第478巻のものである可能性が高い。 他の2紙もいずれかの経巻の断簡の可能性が高い。